

平成 30 年度 第 4 回屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会  
議事次第

日時：平成 31 年 1 月 14 日（月） 9:00～12:00

場所：屋久島環境文化村センター レクチャー室

1. 開会
2. あいさつ・出席者紹介
3. 議事
  - (1) 登山道の整備・管理方針について
  - (2) 各登山道のランク設定について
4. その他  
検討の進捗状況と次年度の予定
5. 閉会

《配布資料》

【議事次第・出席者名簿】

【配席図】

【資料1】屋久島登山道の整備・管理方針（修正版）

【資料2】各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）

【資料3】検討全体スケジュールについて

【参考資料1】平成30年度第3回検討会議事録

【参考資料2】平成30年度第3回検討会グループ討議の概要

【参考資料3】各登山道の利用体験ランク及び整備・管理方針設定の議論の流れ（予定）

【参考資料4】屋久島山岳部の各登山道の現況整理

【参考資料5】屋久島国立公園事業（歩道）執行状況

【参考資料6】山岳部適正利用ビジョンの構成図

平成30年度 第4回屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会  
出席者名簿

委員

(五十音順)

氏名	所属・役職等	備考
柴崎 茂光	国立歴史民俗博物館 准教授	
土屋 俊幸	東京農工大学大学院 教授	
吉田 正人	筑波大学大学院 教授	

関係行政機関

氏名	所属・役職等	備考
佐藤 敏郎	九州森林管理局 計画課 自然遺産保全調整官	
川畑 充郎	屋久島森林管理署 署長	
古市 真二郎	屋久島森林生態系保全センター 所長	
永山 博美	屋久島森林生態系保全センター 自然再生指導官	
古川 皓一郎	鹿児島県 環境林務部 自然保護課 主事	
迫田 憲治	鹿児島県 PR・観光戦略部観光課 技術主幹兼観光地づくり係長	
越迫 由香里	鹿児島県 PR・観光戦略部観光課 観光地づくり係技術主査	
福村 ちず子	鹿児島県 熊毛支庁屋久島事務所 総務企画課長	
吉原 隆	鹿児島県 熊毛支庁屋久島事務所 総務企画課 主幹	
	鹿児島県教育庁 文化財課	欠席
矢野 和好	屋久島町 環境政策課長	
内田 大信	屋久島町 環境政策課 自然環境係長	
竹之内 大樹	屋久島町 商工観光課長	
小山 真吾	屋久島警察署 地域課 地域係長	

地域関係団体

氏名	所属・役職等	備考
吉國 三宝	公益財団法人屋久島環境文化財団 研修課長	
榎 光徳	屋久島町議会 議員	
局 富美男	屋久島町区長連絡協議会 会長	
日高 順一	公益社団法人屋久島観光協会 事務局長	
中馬 慎一郎	公益社団法人屋久島観光協会ガイド部会長	
古賀 顕司	屋久島山岳ガイド連盟 代表	
渡邊 太郎	屋久島山岳ガイド連盟 事務局長	
	屋久島レクリエーションの森保護管理協議会 事務局長	欠席
中川 正二郎	宮之浦岳参り伝承会 会長	

オブザーバー（屋久島科学委員）

氏名	所属・役職等	備考
荒田 洋一	屋久島世界遺産地域科学委員	
大山 勇作	屋久島世界遺産地域科学委員	
日下田 紀三	屋久島世界遺産地域科学委員	

事務局

氏名	所属・役職等	備考
小口 陽介	九州地方環境事務所 国立公園課長	
宮木 利浩	九州地方環境事務所 国立公園課 課長補佐	
柘植 規江	屋久島自然保護官事務所 首席自然保護官	
大嶋 達也	屋久島自然保護官事務所 自然保護官	
水川 真希	屋久島自然保護官事務所 自然保護官補佐	
池田 裕二	屋久島自然保護官事務所 自然保護官補佐	
渡邊 環樹	八千代エンジニアリング株式会社 九州支店環境部	
角田 羊平	八千代エンジニアリング株式会社 九州支店環境部	



## 屋久島登山道の整備・管理方針（修正版）

### 1. はじめに

これまでの議論を踏まえ、今年度は、屋久島山岳部の優れた自然環境を損なうことなく質の高い多様な利用体験を提供できる、よりよい管理を行うことを目的に、各登山道のあるべき姿としてのランク分けおよびそれに見合うランクごとの整備・管理方針の設定を行うこととしている。

前回までに、屋久島山岳部の状況や想定される利用者と利用体験の質（どのような体験をしてもらいたい）を踏まえて5つのランクを設定し、各ランクにおいて、あるべき姿としての利用体験の質の確保や優れた自然環境の保全を目的とし、ランクごとの登山道の整備・管理方針を検討してきた。

今回、第3回検討会でのご意見を踏まえた修正版をご提示する。修正点を含めて内容についてご確認・ご議論いただき、本検討会で確定としたい。

### 2. 第3回検討会からの修正部分

第3回検討会から修正・追記を行った部分を整理した（表1～3）。また、整備・管理方針の表では、修正・追記部分を赤字で示した（表4～表6）。

表1 第3回検討会からの修正・追記部分（1/3）

項目	該当部分	第3回検討会時	修正後	
5. 想定されるリスクと対策の方針	路面状況による転倒などのケガ	ランク5	転倒の発生等の防止に関する整備・管理を行わないことを基本とする。	転倒の発生等の防止に関する整備を行わないことを基本とし、 <u>必要最低限の管理</u> とする。
	荒天時のリスク	ランク3	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋や一部の休憩スペース以外に荒天時のリスクに対する整備・管理を行わない。	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋や一部の休憩スペース以外に荒天時のリスクに対する <u>整備は行わず、管理は必要最低限とする。</u>
		ランク4 ランク5	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備・管理を行わない。	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する <u>整備は行わず、管理は必要最低限とする。</u>
8. 施設	橋・徒渉点の対応	ランク3 ランク4 ランク5	自己の判断で徒渉	徒渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする。

表 2 第3回検討会からの修正・追記部分 (2/3)

8. 施設	ロープが必要な登坂・岩登り箇所への対応	ランク 5	対策を行わないことを基本とする。	対策を行わないことを基本とするが、 <u>危険箇所には必要最低限の対策を行う。</u>
9. 管理	標識 (規制・注意)	ランク 4	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とするが、施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の特に危険な箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。
		ランク 5	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とする。	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とするが、 <u>特に危険な箇所については、必要に応じて目印（テープ等）による注意喚起を行う。</u>
		備考・留意点	-	危険箇所明示のための目印（テープ）は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。
	危険木（倒木や落枝の恐れのある木）の処理	ランク 3	施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の危険木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて最低限の簡易看板等による注意喚起を行う。
ランク 4		対策を行わないことを基本とするが、施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の危険木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とするが、特に危険な木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	
ランク 5		対策を行わないことを基本とする。 ルートでの注意喚起など、必要最低限の対策に留める。	対策を行わないことを基本とし、ルートでの注意喚起など、必要最低限の対策に留めるものとするが、 <u>特に危険な木については、必要に応じて目印（テープ等）による注意喚起を行う。</u>	
備考・留意点		-	危険木明示のための目印（テープ）は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。	

表 3 第3回検討会からの修正・追記部分 (3/3)

9. 管理	草木の刈り 払い	ランク 5	巡視時に状況を確認する。 原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の刈り払いとする。 ※状況によっては藪漕ぎが必要となる場合も想定する。	巡視時に状況を確認する。 原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の管理とする。
	巡視の頻度	ランク 5	1年～数年に1回程度実施	年に1回程度実施

## 【ランクを問わず必要な留意点】

- ※1 「利用体験ランクの設定は無雪期で荒天時を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク（徒渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等）が想定より高くなることに留意が必要である。」を追加
- ※2 「ランクを問わずヒルによる咬傷の可能性があるため、適切な対策を行うことが推奨される。」を追加

表4 整備・管理方針（修正版）の内容

1 屋久島山岳部を利用する上で求められる事項 (屋久島の山の文化に対する配慮)		屋久島の山は、現代においても山岳信仰が受け継がれている「聖地」 屋久島の自然の厳しさを認識した上で、山への畏敬の念や感謝、遠慮の心を持つての利用が求められる						
2 利用体験ランク(呼称は要検討)		1	2	3	4	5	備考・留意点	
		都市的				原生的		
3 想定される利用体験の質		屋久島山岳部の自然に ふれあう探勝ルート	屋久島山岳部の自然を 楽しむトレッキングルート	屋久島山岳部の自然を 体感できる登山道	屋久島山岳部の原生的な自然を 体感できる登山道	屋久島山岳部の原生的かつ 荘厳な自然を深く体感できる登山道		
4 利用者	想定される利用者	一般観光客	ハイカー・登山入門者	登山者	登山者	豊富な経験を有する登山者	一般観光客・体力や技術がそれほどない人も含む。 ハイカー・登山初心者：一定の体力や技術が必要。	
	想定される行程	半日未満	日帰り(半日～一日)	日帰り(一日)	日帰り(一日)・ 行程によって一泊	一泊以上		
	装備(靴)	歩行に適した靴 (サンダル・ハイヒール等不可)	トレッキングシューズ	トレッキングシューズ・登山靴 (ある程度の防水性・足首のホールド性があるもの)	登山靴 (防水性が高く、足首がホールドされるもの)	登山靴 (防水性が高く、足首がホールドされるもの)		
	登山装備 (悪天候時や道迷い等の際の備え)	雨除け対策 (登山用レインウェア)	雨除け対策 (登山用レインウェア) 非常食 道迷い対策(地図・コンパスなど) ヘッドライト	一般的な登山装備 行程変更対策(非常食、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	3～5は、増水で徒渉点が濡れなくなった場合等の装備が必要。 4、5は、道迷いしてしまった場合に自分の位置を確認し、ルートに復帰するための装備が必要。	
5 想定される リスクと対策 の方針	道迷い	道迷いの発生防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	道迷いの発生防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	道迷いの発生に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	自然の雰囲気保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。		
	路面状況による転倒などのケガ	転倒の発生等の防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	自然の雰囲気保持よりも、転倒の発生等の防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	転倒の発生等に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気保持を最優先とした、転倒の発生等を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	転倒の発生等の防止に関する整備・管理を行わないことを基本とし、必要最低限の管理とする。		
	荒天時のリスク (徒渉点の増水・大雨や霧による視界不良などによる行程変更)	荒天時にも安全に避難・退所することが可能な整備・管理を行う。	必要に応じて、荒天時にも避難・退所することが可能な整備・管理を行う。	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋や一部の休憩スペース以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理を行わないは必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理を行わないは必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対処を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理を行わないは必要最低限とする。		
6 利用の頻度・ 利用の容易さ	人との出会い(繁忙期を除く)	常に人に出会い、時に渋滞が起きる。数十名の団体利用も想定される。	しばしば人に出会う。	時々(1時間に数回程度)人に出会う。	稀に(1日に数回程度)人に出会う。	1日の行程で、ほとんど人と出会わない。	普通の平日を想定。	
	アクセス	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	舗装路を利用して、車両で到着できる。場所によっては、未舗装路利用の場合もある。	未舗装路・悪路を利用して車両で到着する。場所によっては徒歩でのみ到達可能な場合もある。	徒歩での到着を基本とする。場所によっては未舗装路・悪路を利用して車両で到達可能な場合もある。		
7 環境	自然らしさ(人工物の状況)	安全性・快適性のため、人工的な構造物が頻りに設置されている環境	安全性・快適性のため、人工的な構造物が適所に設置されている環境	安全性・快適性のため人工的な構造物が少なく、自然の雰囲気保持が優先された環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境		
	音	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	まれに人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。		
8 施設	道の歩きやすさ(路面・木道の整備)	ぬかるんでいる場所、木の根や石で滑りやすい場所、傾斜がある場所等には、歩きやすいよう木道・階段等を設置する。	地面を歩くことを基本とするが、木の根・石・斜面などの滑りやすい場所には、必要に応じて木道・階段を設置する。	地面を歩くことを基本とし、特に滑りやすい部分や急傾斜等には必要に応じて小規模な木道を設置する。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	・設置した木道等は適切に保全・補修等を行う。 ・登山道荒廃対策や植生の保護を目的とした木道については、ランクによらず適切に設置する。 ・整備の程度はランク・状況により検討が必要となる。	
	橋・徒渉点の対応	徒渉しなくてよいように、橋等を設置する。	・徒渉しなくてよいように、必要に応じて簡易な橋を設置する。 ・橋を設置しない場合、徒渉点が増水した際は管理者の判断で利用を制限することがある。	対策を行わないことを基本とし、徒渉が必要な場合がある。必要に応じてロープやワイヤーを設置する。 (徒渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、徒渉が必要な場合がある。 (徒渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、徒渉が必要な場合がある。 (徒渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)		
	ロープが必要な登坂・岩登り箇所への対応	必要な箇所に階段等を設置する。	必要な箇所に階段やはしご等を設置する。	必要な箇所にロープや鎖を設置する。	必要な箇所に最低限のロープや鎖を設置する。	対策を行わないことを基本とするが、危険箇所には必要最低限の対策を行う。		
	トイレ・携帯トイレブースの設置	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜トイレを設置する。(処理の方法は状況による)	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜携帯トイレブースを設置する。	必要に応じて、区間内の要所に携帯トイレブースを設置する。設置の際は自然の雰囲気保持に配慮する。	区間内に必要最低限の携帯トイレブースを設置する。設置の際は自然の雰囲気保持に配慮する。	トイレ・携帯トイレブースを設置しない。屋外での携帯トイレ使用を基本とする。		
	休憩施設・ベンチ	雨除け可能な東屋を適所に設置する。ベンチを一定間隔で設置する。	ベンチ・休憩スペースを適所に設置する。必要に応じて雨除け可能な東屋の設置する。	必要に応じて最低限の休憩スペースを設置する。避難小屋やその周辺のスペースを利用する。	設置しない。	設置しない。		
	宿泊施設	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	避難小屋 避難小屋周辺でのテント泊	宿泊施設、避難小屋及びテント場は設置しない。 (他ルートの避難小屋利用を想定)	緊急的にビバークする場合を除く。	
9 管理	標識	案内 (道の案内・地図等)	入口及び分岐点・立ち寄り地点の要所に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)		
		道標	分岐点及び一定区間ごとに設置	分岐点及び一定区間ごと(頻度は中程度)に設置	分岐点及び必要に応じて区間内に最低限の設置	分岐点にのみ設置	分岐点にのみ設置	
		規制・注意	入口に注意点を明記。全ての規制・危険箇所に設置。	入口に注意点を明記。必要に応じて規制・危険箇所に設置。	入口に注意点を明記。必要に応じて規制・危険箇所に最低限の設置。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の特に危険な箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険箇所明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。
		解説	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する主な箇所に必要最低限の解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。※各箇所に設置しない。	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。※各箇所に設置しない。	
9 管理	ルート誘導・ ルート外へ出ないようにするための規制	ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭な箇所においては、柵、ロープ、木道等により歩行可能な場所が明確な状態とする。	・ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭な箇所外に利用者が溢出する可能性がある区間ではロープ等によりルートが判別できる状態とする。	・ルートが明確な区間での誘導は行わない。 ・ルートが不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	誘導のための目印(テープ)は、他の目的のものと混同せず、視認性が高いものを用いる。	
		定期的危険木の有無を確認する。基本的に伐採又は枝落とし等の処理を行い、当該処理ができない場合には簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の危険な箇所については、必要に応じて最低限の簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とするが、施設周辺など、利用者が滞在する場所周辺の特に危険な木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とし、ルートの入口での注意喚起など、必要最低限の対策に留めるものとするが、特に危険な木については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険箇所明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。	
		巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。状況に応じて倒木の処理を行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。通過できる程度の必要最低限の処理を行う。	巡視時に状況を確認する。倒木迂回による植生への影響、倒木乗り越え時の危険、倒木による道迷い、倒木が登山道安全に影響がある場合のみ、周辺環境への影響が出ない方法で処理を行う。	応急措置として、通行止めや迂回路とする場合もある。	
		必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならず、快適に歩行できる状態を保つ。	必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならない状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。自然の雰囲気保持を優先しつつ、必要に応じて必要な箇所の刈り払いを行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の刈り払いとする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の管理とする。 ※状況によっては藪漕ぎが必要となる場合も想定する。		
巡視の頻度	1日に1回程度実施	1週間に1回程度実施	1ヶ月に1回程度実施	年に1～2回程度実施	年に1回程度実施			

## 【ランクを問わず必要な留意点】

※1 利用体験ランクの設定は無雪期で荒天時を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク(徒渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等)が想定より高なることに留意が必要である。  
 ※2 ランクを問わずヒルによる咬傷の可能性があるので、適切な対策を行うことが推奨される。





## 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）

### 1. はじめに

これまでの議論を踏まえ、今年度は、屋久島山岳部の優れた自然環境を損なうことなく質の高い多様な利用体験を提供できる、よりよい管理を行うことを目的に、各登山道のあるべき姿としてのランク分けおよびそれに見合うランクごとの整備・管理方針の設定を行うこととしている。

各登山ルートのあるべき利用体験ランクの設定については、前回までに、実際の利用を想定した登山ルート（入山口～経由地～下山口）を対象とすることとしており、いくつかのルートのランク設定についてはグループ討議なども行っていただいた。

第3回検討会后、事務局において、その他ルートも含め、今年度の検討会において整理を行ってきた「登山道区間の現況」や「各登山ルートの魅力」、「登山ルートのコースタイムや距離」、「第3回検討会時に実施したグループ討議での議論」等を踏まえ、『各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）』を作成した。

本検討会では、本案を基に各登山ルートのあるべき利用体験ランクについてご議論いただきたい。今回の議論でのご意見を踏まえ、本検討会で、登山ルートの利用体験ランクを概ね確定することを想定している。

### 2. 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）

#### 2.1. 対象登山ルート

対象登山ルートは、今年度実施した聞き取り調査で得られた登山ルートのうち、現状の利用実態から考えた場合に一般的ではないと判断されるルートや、今回のランク検討の対象路線外のルートを除外した32ルートとした。なお、楠川歩道入口から白谷雲水峡までの区間を通過するルートで対象となるルートが無かったため、「No.32 淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口」を追加した。

#### 2.2. あるべき利用体験ランクの検討

対象登山ルートごとに、コースタイムや距離、ルートの魅力や利用の際の留意点（第3回検討会での議論内容含む）、通過する登山道区間の現況をシート形式で整理し、これらを基に各登山ルートの利用体験ランクを検討し、素案を作成した（表1～表4、図1）。

表 1 登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）整理表

利用体験 ランク (素案)	No.	ルート
1	15	ヤクスギランド30分コース・50分コース
	21	白谷雲水峡 弥生杉コース
2	16	ヤクスギランド80分コース
	17	ヤクスギランド150分コース
	18	ヤクスギランド210分コース
	22	白谷雲水峡 奉行杉コース
	23	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復
3	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	4	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
	12	モッチョム岳往復 日帰り
	19	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
	20	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
	24	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
	25	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
4	2	荒川口～縄文杉往復 1泊
	3	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
	5	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
	6	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
	7	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
	13	愛子岳往復 日帰り
	14	龍神杉往復 日帰り
	26	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
	28	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	32※	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊
5	8	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊
	10	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊
	11	永田歩道入口～永田岳～宮之浦岳～淀川入口 1泊
	27	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊
	29	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊
	30	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊
	31	湯泊歩道入口～旧栗生歩道入口 1泊

※第3回検討会時に議論いただいた登山ルートを灰色塗で示す。

表 2 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）

区分	No.	ルート	利用体験 ランク (素案)	利用体験ランク選定理由	留意点
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・WSIにおいて、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。
	2	荒川口～縄文杉往復 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	
	3	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	
黒味岳	4	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3	・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現状等を考慮し、ランク3を想定。	
宮之浦岳	5	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4	・WSでの議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・WSIにおいて、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
淀川入口～荒川口	6	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4	・WSでの議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	
淀川入口～白谷雲水峡	7	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	
永田歩道・花山歩道	8	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～鹿之沢小屋～花山歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・第3回検討会において、「湯治歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なルートとすることを旨とし、適切な整備・管理水準とすることを想定。
	10	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～鹿之沢小屋～永田歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	11	永田歩道入口～鹿之沢小屋～永田岳～宮之浦岳～淀川入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
モツチョム岳	12	モツチョム岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
愛子岳	13	愛子岳往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
龍神杉	14	龍神杉往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石量などを楽しむことができるルート。また、トロッコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・徒渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
ヤクスギランド	15	ヤクスギランド30分・50分コース	1	・第3回検討会時に決定。	
	16	ヤクスギランド80分コース	2	・コースタイムや距離は比較的に短い、整備状況等を踏まえランク2を想定。	
	17	ヤクスギランド150分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現状を踏まえ、ランク2を想定。	
	18	ヤクスギランド210分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現状を踏まえ、ランク2を想定。	
太忠岳	19	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現状を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
大和杉	20	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現状を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いや滑りやすくなる箇所がある」という意見が挙げられた。
白谷雲水峡	21	白谷雲水峡 弥生杉コース	1	・WSでの議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。	・WSIにおいて、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。
	22	白谷雲水峡 奉行杉コース	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	23	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	24	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3	・WSでの議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
尾之間歩道	25	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。
	26	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、銅之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
花之江阿登山道	27	淀川入口～黒味岳～花之江阿登山道～ヤクスギランド出口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
湯治歩道・栗生歩道	28	湯治歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	4	・コースタイムや距離から日帰り行程が可能であり、原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性を考慮し、ランク4を想定。	・聞き取りでは「比較的に登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。
	29	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯治歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	30	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	31	湯治歩道入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
楠川歩道	32※	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	

表 3 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）1/2 ※表 2 の拡大

区分	No.	ルート	利用体験 ランク (素案)	利用体験ランク選定理由	留意点
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・WSにおいて、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。
	2	荒川口～縄文杉往復 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	
	3	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	
黒味岳	4	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3	・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。	
宮之浦岳	5	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4	・WSでの議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・WSにおいて、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
淀川入口～荒川口	6	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4	・WSでの議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	
淀川入口～白谷雲水峡	7	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	
永田歩道・花山歩道	8	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～鹿之沢小屋～花山歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・第3回検討会において、「湯泊歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なルートとすることを目指し、適切な整備・管理水準とすることを想定。
	10	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～鹿之沢小屋～永田歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	11	永田歩道入口～鹿之沢小屋～永田岳～宮之浦岳～淀川入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
モツチョム岳	12	モツチョム岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
愛子岳	13	愛子岳往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
龍神杉	14	龍神杉往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石畳などを楽しむことができるルート。また、トロッコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・徒渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。

表 4 各登山ルートのあるべき利用体験ランク（素案）2/2 ※表 2 の拡大

区分	No.	ルート	利用体験 ランク (素案)	利用体験ランク選定理由	留意点
ヤクスギランド	15	ヤクスギランド30分・50分コース	1	・第3回検討会時に決定。	
	16	ヤクスギランド80分コース	2	・コースタイムや距離は比較的短い、整備状況等を踏まえランク2を想定。	
	17	ヤクスギランド150分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
	18	ヤクスギランド210分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
太忠岳	19	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
大和杉	20	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いしやすい箇所がある」という意見が挙げられた。
白谷雲水峡	21	白谷雲水峡 弥生杉コース	1	・WSでの議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことのできるルートとして、ランク1を想定。	・WSにおいて、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。
	22	白谷雲水峡 奉行杉コース	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	23	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	24	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3	・WSでの議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
尾之間歩道	25	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。
	26	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことのできるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
花之江河登山道	27	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
湯泊歩道・栗生歩道	28	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	4	・コースタイムや距離から日帰り行程が可能であり、原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性を考慮し、ランク4を想定。	・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。
	29	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	30	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
	31	湯泊歩道入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	
楠川歩道	32※	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	



No.1	荒川口～縄文杉 往復 (日帰り)	総コース タイム	9:00	行程 荒川口⇒大株歩道入口⇒縄文杉 (往復) 日帰り
区間	8-1、8-2(大株歩道入口～縄文杉区間) 往復	総距離 標高差	18.8km (715m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
3	<p>・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク3を想定。</p>	<p>・WSにおいて、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。</p>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートを通じて、本州の山との違いを体感できる。屋久島の山は表土が薄いので土はすぐ流されてしまうため、本州の山とは木の生え方が違う。屋久島では倒木や大岩の上などの苔むした場所に大木が生える。【①】</li> <li>・縄文杉は大きな見どころ。迫力がある。【②】【⑫】【雑誌】</li> <li>・昔(昭和40年頃)、縄文杉には触ることができるほど近づくことができ、木々が茂っている自然の状況のなかで縄文杉を見ることができた。【⑫】</li> <li>・大株歩道では300年を超える広葉樹も多く見ることができる。着生植物が豊富に生えた大木がある。【①】</li> <li>・ウィルソン株付近の、300～400年生の小杉の密集した美林。森の成り立ちを感じられる。【③】</li> <li>・縄文杉付近の、人の手は入っているが原生性が感じられる巨木の森。【③】</li> <li>・翁杉、ウィルソン株、大王杉、夫婦杉などの杉の巨木。【雑誌】</li> <li>・三代杉は倒木更新や切株更新がみられる、ある意味屋久島を象徴する杉。【雑誌】</li> <li>・様々な種類の植物を見ることができる。【⑤】</li> <li>・ルートを歩くなかでの森の変化。小杉谷集落周辺の回復過程の人工林、ウィルソン株周辺の杉の純林、大株歩道の天然林。【WS】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月頃の薄く雪が降った際の風景も良い。【⑤】</li> <li>・雨が降って霧がかかっている時の雰囲気も魅力的。【⑤】</li> <li>・大株歩道入り口から縄文杉までの道は風景を見ているだけで楽しい。【⑥】</li> <li>・トロッコ道では雨の時に山や川の状況がドラスティックに変化する様が見られて楽しい。大雨が降ると急に滝が現れ、すぐに元に戻るなど。【①】</li> </ul>

景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トロッコ道沿いの沢は魅力的。トロッコ道を横切る沢を渡るたびに空気の冷たさを体感できる。夏場でもそこまで暑くない。【①】</li> <li>・トロッコ道にある橋から見る川の風景は魅力。荒川登山口に入ってすぐのトロッコ道のトンネルは冒険のようで面白い。【⑥】</li> <li>・トロッコ軌道の渓谷沿いは4月上旬にはヤマザクラ、6月頃にはサツキが咲き、風光明媚な空間。【雑誌】</li> <li>・昔はトロッコ道沿いの道から沢に降りることができて良かった。川の水で足を冷やしたりした。【⑤】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復した杉林。林業の歴史も感じられる。【②】</li> <li>・荒川口のダムは屋久島の水循環が人の暮らしに関わっていく基点。【④】</li> <li>・トロッコ軌道そのものが魅力。【②】</li> <li>・トロッコ軌道は近代産業遺産と捉えるべき。【④】</li> <li>・小杉谷集落跡や大山神社、トロッコ道では林業の歴史を感じられる。【③】【雑誌】</li> <li>・杉の巨木林、江戸時代からの伐採の歴史を感じられる。【④】</li> <li>・小杉谷周辺では伐採の歴史を感じられる。縄文杉に行く際は、小杉谷集落を含めた過去の伐採の歴史を知った上で行って欲しい。【⑤】</li> <li>・小杉谷周辺の森林では屋久島の森の復元力の素晴らしさを感じる。【WS】</li> <li>・植林された杉と、過去に切られた杉の大木とのコントラストが魅力的。【WS】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレや歩道・木道が整備されている。【②】</li> <li>・ガイドが多いので、ケガなどの緊急事態の際の安全性がある程度確保されている。【②】</li> <li>・ツアーが多いので、初心者や少人数でも参加しやすい。【②】</li> <li>・長時間歩いた上で縄文杉を見ることによる達成感。【③】</li> <li>・道迷いの心配がほとんどない。【WS】</li> <li>・ルートを通じて、癒しを感じることができる。【WS】</li> </ul>

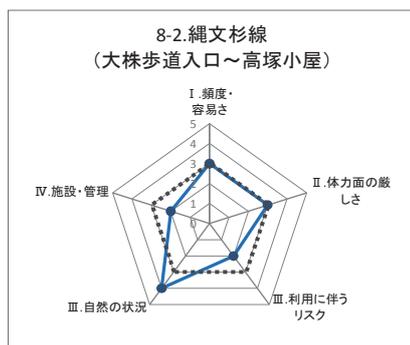
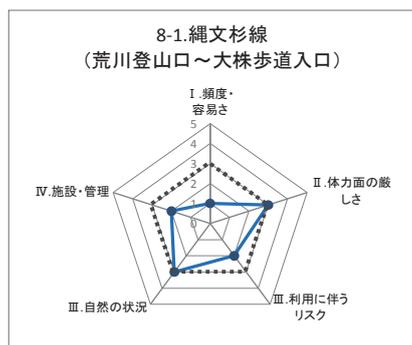
## 3.利用の際の留意点・その他ご意見

行程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートの距離が長く、8時間以上の行程と長時間の歩行が必要になるため、日帰り利用は推奨できない。ゆっくり魅力を味わえない。見どころは多いのに説明する時間もない。【①】</li> <li>・利用者に説明したいことが多くあるルート。例えば小杉谷集落跡に宿泊できる研修場所を作って、ゆっくり時間を取って、森の静けさを感じながら森の成り立ちを理解してもらおうルートにするなどできると良い。今の日帰り行程は慌ただしく、色々なことを説明する時間が無い。【③】</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい入込人数は平均300人/日程度。【②】【⑤】</li> <li>・今の利用人数は多過ぎて騒がしい。このルートを楽しむなら100人/日程度が望ましい。【③】</li> <li>・縄文杉を見て良い気分になっているのに、帰り道が混雑し、なかなか進めない状況になると気分を害してしまう。【⑤】</li> <li>・大株歩道はGWの時期にかなり混雑していると感じる。休憩場所以外の歩道上で昼食を食べている人が多くなり、道を歩くときに困る。【⑥】</li> <li>・利用者が集中する時期は人が多すぎて楽しめない。登山の際、利用が集中しない時期を選ばないといけな。【WS】</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィルソン株の周辺が現在綺麗なのは大株歩道入口にトイレができたため。それまではウィルソン株周辺で用を足す人も多かった。【①】</li> <li>・時期によってはトイレが1時間以上使えない事があるほど混む。【⑤】</li> <li>・トロッコ道のバイオトイレは、利用者が多い時期は処理が追い付いていないと感じる。【⑥】</li> <li>・利用者の人数に見合うトイレの整備が必要。【WS】</li> <li>・高塚小屋のトイレはオーバーユースの状態であると思うので、携帯トイレの利用を基本とするべきと考える。その際、大株歩道入口に携帯トイレ回収施設があると良いだろう。【WS】</li> </ul>
整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の利用人数を考えると、木道上ですれ違えるようにするなど、植生保護の目的で、より木道を整備する必要があるだろう。(例えば尾瀬のように2本の木道とするなど)。【③】</li> <li>・今整備されている木道は植生保護のこともあり必要だが、人によっては自然の雰囲気にも物足りなさを感じるかもしれない。【⑤】</li> <li>・小杉谷の集落跡も整備して、ちゃんと見てもらいたい。【⑤】</li> </ul>

整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の木道は老朽化が進んでおり、木道整備の必要性がある。【WS】</li> <li>・将来的なトロッコ鼓動の維持管理について検討する必要がある。【WS】</li> </ul>
看板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の案内板が小さすぎて見えない。また、他の植物の成長によって対象の植物や風景が見えづらい場合があるので、雑木を伐採して欲しい。【⑤】</li> <li>・希少植物の看板は盗掘が起こる可能性があるため心配。【⑤】</li> <li>・目的地までの距離標識がもう少しあると良いかもしれない。頻繁に尋ねられる。標識は景観に配慮した目立たないものが良い。【⑤】</li> <li>・トロッコ道に植物の看板があるが、花の咲いていない時期は分かりづらい。トロッコ道に植生の案内看板などがあるのは良いが、大株歩道より上は看板が無くてよい。【⑥】</li> </ul>
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の時にトロッコ道を歩く時は山側を歩いて欲しい。滑りやすく危険。【⑤】【⑥】</li> <li>・大株歩道の木道は雨が降ると滑りやすい。人とのすれ違いが多いと、人を避ける際にバランスを崩すので危ない。特に下りの階段は危険。【⑥】</li> <li>・トロッコ道は膝に負担がかかり疲労しやすいなど、厳しいルートであると思う。【WS】</li> <li>・トロッコ軌道の橋での安全性対策を行う必要がある。【WS】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイカー規制の広報が足りていない。【②】</li> <li>・荒川口までのバスと路線バスとの接続が悪い。バスの本数が少ない。【②】</li> <li>・携帯電話が通じない区間があるなど、連絡手段が乏しい。【②】</li> <li>・利用者は目的地の下調べをしてから来て欲しい。今の利用者はハイキング気分で下調べをほとんどしていないのではないかと。【⑤】</li> <li>・ウィルソン株のハートの写真を撮れる位置が分かりづらい。初めての人は分からないと思う。また、ウィルソン株は写真のために人が並んで混雑する。【⑥】</li> <li>・台風の後などは、登山道を塞ぐような倒木・落石が絶えない。【WS】</li> <li>・小杉谷の人工林について、杉の人工林のモデルとなり得るような整備を行い、新しい魅力としてはどうか。【WS】</li> </ul>

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2



No.2	荒川口～縄文杉・高塚小屋 往復 (1泊)	総コースタイム	9:20	行程	荒川登山口⇒大株歩道入口⇒縄文杉⇒高塚小屋(往復) 高塚小屋宿泊
区間	8-1、8-2往復	総距離 標高差	19.2km (730m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	

2.ルートの魅力	
自然	・朝焼けのなかの縄文杉。【②】
その他	・のんびり人が少ない縄文杉を楽しめる。【②】 ・宿泊することで、体力面や時間に余裕ができる。【WS】 ・利用時間帯が集中せず、縄文杉や周辺の森を静かに楽しむことができる。【WS】

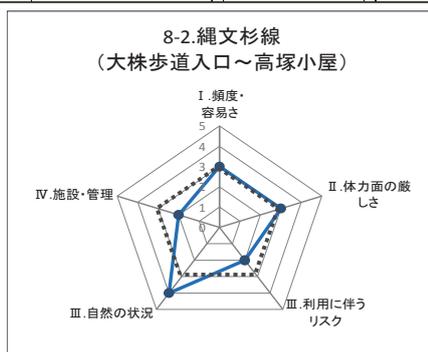
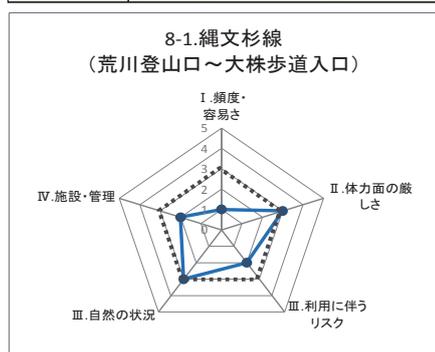
※「No.1 縄文杉線・日帰り」重複区間の魅力参照

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
宿泊施設	・利用人数に対する避難小屋の収容人数の少なさ(オーバーユース)。【②】 ・利用者に対するテント場の少なさ。【②】

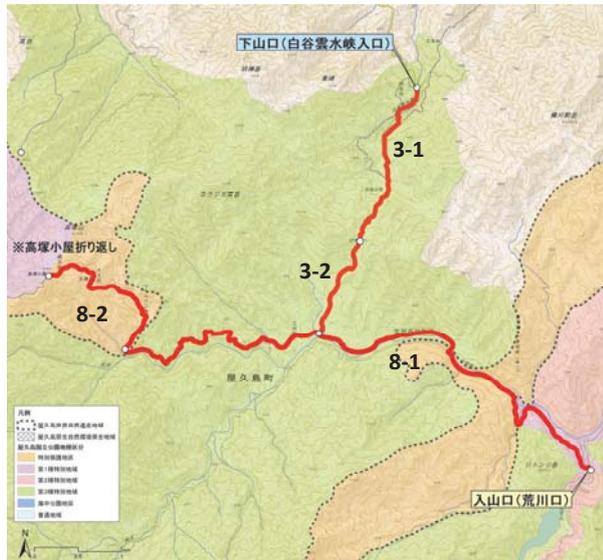
※「No.1 縄文杉線・日帰り」重複区間の留意点等参照

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2



No.3	荒川口～縄文杉(高塚小屋)～白谷雲水峡(1泊)	総コースタイム	10:15	行程 荒川登山口⇒大株歩道入口⇒縄文杉⇒楠川分かれ⇒白谷雲水峡入口 高塚小屋宿泊
区間	8-1、8-2、3-2、3-1(辻峠～白谷雲水峡入口区間)	総距離 標高差	17.9km (730m)	



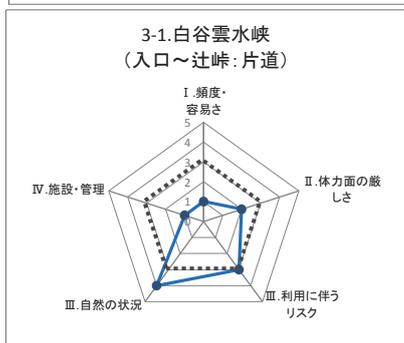
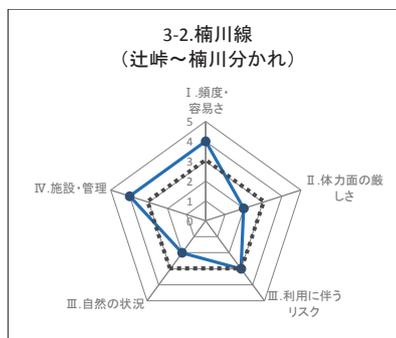
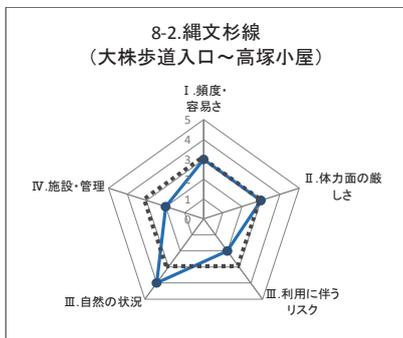
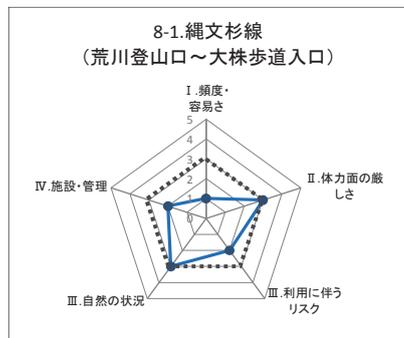
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定の場合、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	

<p>2.ルートの魅力</p> <p>※「No.2 縄文杉線・往復(1泊)」、「No.23白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩往復」重複区間の魅力参照。</p>
------------------------------------------------------------------------------

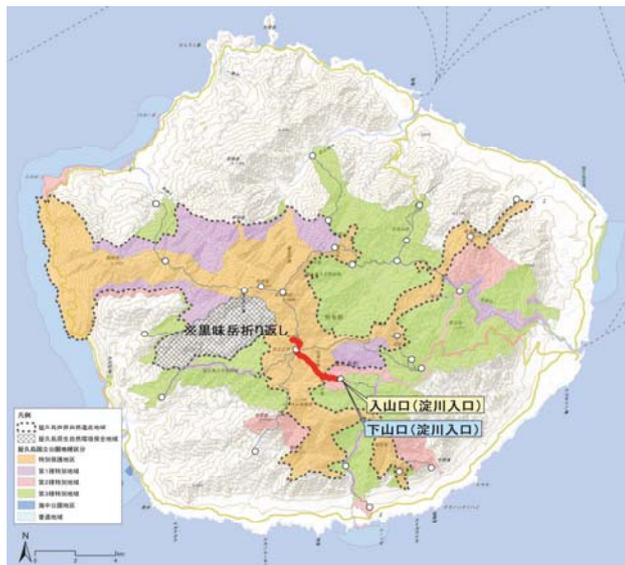
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・雨が強いと白谷雲水峡の徒渉点が渡れなくなり、荒川口の方に道を変更する必要がある。天候による判断が難しい。ガイドさん達は無線で連絡を取り合っている情報が分かるが、個人客の人たちは情報が分からないため危険。【⑥】
※「No.2 縄文杉線・往復(1泊)」、「No.23白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩往復」重複区間の留意点等参照。	

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	4	2	3	2	4
3-1	白谷雲水峽 (入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1



No.4	淀川入口～黒味岳 往復 (日帰り)	総コース タイム	6:55	行程 淀川入口⇒花之江河⇒黒味岳 (往復) 日帰り
区間	8-5、8-4(花之江河～黒味分かれ区間)、8-6往復	総距離 標高差	8.1km (461m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
3	<p>・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。</p>	

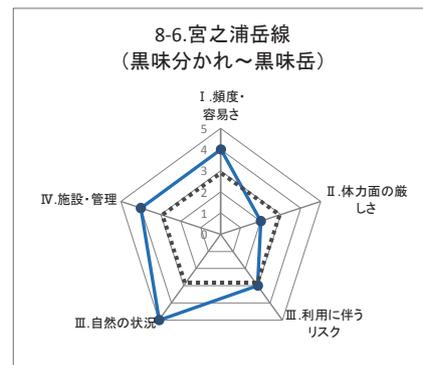
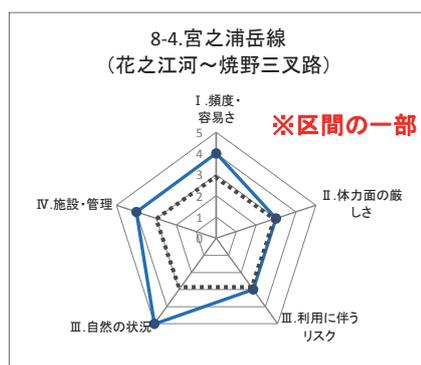
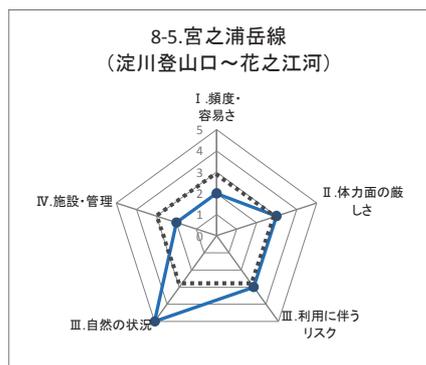
2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1350m～1831mまでのコースで、杉林～高層湿原～植生限界といった植生の変化が魅力。【①】</li> <li>・同じ植物でも標高に応じた葉の形状の違いなどが目で見て分かる。【①】</li> <li>・隆起花崗岩で土壌が薄いので、ヒメシャラの根が横に這っている様子。【①】</li> <li>・様々な高山植物が楽しめる。【②】</li> <li>・花之江河の湿地帯の固有の動植物。【③】</li> <li>・高山帯の植生が良い。シャクナゲの花が咲く時期は美しい。【④】</li> <li>・淀川周辺の着生木等の紅葉が美しい。四季の風景を楽しめる。【①】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒味岳からの眺望。【①】【②】</li> <li>・宮之浦岳を望む眺望。【②】</li> <li>・高盤岳の山頂の奇岩。自然の造形美の不思議さ。【雑誌】</li> <li>・黒味岳は非常に魅力的で、奥岳に登ったら必ず山頂に登っている。周辺に枯存木があり、花之江河を眼下にし、宮之浦岳など奥岳を望む眺望が素晴らしい。【⑫】</li> <li>・花之江河の風景は素晴らしい。枯存木と色とりどりのシャクナゲの花、空の青さのコントラストが印象に残っている。【⑮】</li> <li>・日本最南端の高層湿原、日本庭園のような花之江河。【雑誌】</li> <li>・淀川の風景が良い。帰りは足を冷やしてから帰っている。【⑥】</li> <li>・桃源郷のような静かで美しい淀川の風景。【雑誌】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花之江河の岳参りの祠。【雑誌】</li> </ul>

その他	・奥岳のルートで一番おすすめ。往復6時間程度の行程で日帰り登山としてちょうど良い。【①】
	・宮之浦岳登山より登山のリスクが少ない。【②】
	・1日行程で時間に余裕を持ったルート。美しい奥岳の風景を楽しめる。【④】
	・多少雪が積もるような冬の時期でも歩くことができる。【①】
	・淀川口から花之江河までは安全に歩くことができる。【④】

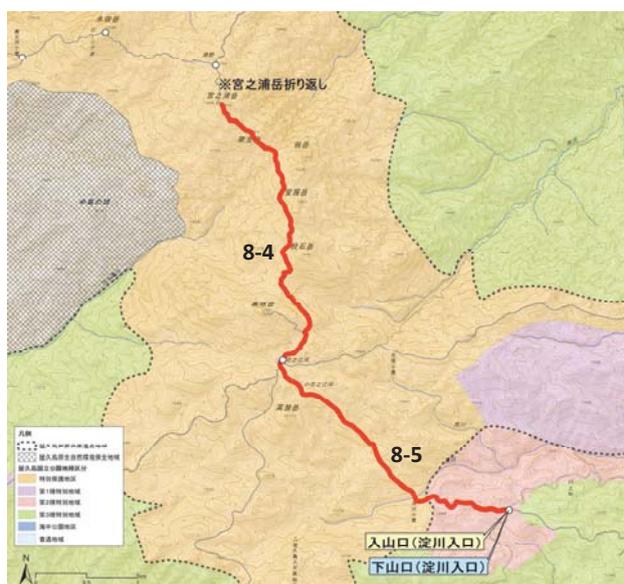
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・比較的楽なコースだが、黒味岳の頂上付近の岩場の土砂が流出して歩きづらくなっており、整備が必要。斜めの岩場をトラバースするので歩きにくい。現状であれば軽微な修復で間に合うだろう。【①】 ・黒味岳山頂付近はロープ使用が多い【②】
その他	・淀川入口の駐車場が狭い【②】

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2
8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)	4	3	3	5	4
8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	4	2*	3	5	4



No.5	淀川入口～宮之浦岳 往復 (日帰り)	総コース タイム	10:05	行程 淀川入口⇒花之江河⇒宮之浦岳 (往復) 日帰り
区間	8-5、8-4(花之江河～宮之浦岳 区間)往復	総距離 標高差	12.8km (566m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。</li> <li>WSにおいて、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。</li> </ul>

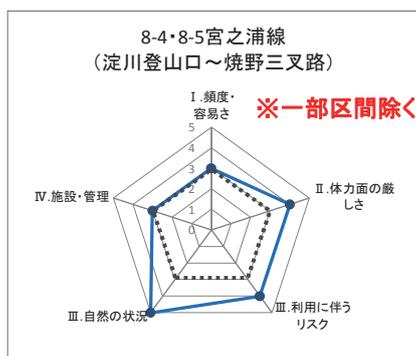
2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>主稜線部では、盆栽のように矮小化した杉が見ることができる。気候条件の厳しさが分かる。【①】</li> <li>ヤクシマシャクナゲに代表される高山部の希少な植物。【③】【⑤】【雑誌】</li> <li>投石平周辺では独特の地形や高山植物を楽しめる。【④】</li> <li>奥岳のヤクシマザサの花が咲いた年に登山したことがあり、花の咲いたササ帯の景色が美しかった。【⑫】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔は宮之浦岳山頂からほぼ360°の水平線が見えていた。最近は大気汚染のためか霞んでことが多い【①】</li> <li>屋久島の代表的な森を見ることができる。景観も美しい【④】</li> <li>花之江河の風景、宮之浦岳からの眺望が楽しめる。【⑤】【雑誌】</li> <li>宮之浦岳や黒味岳からの眺め(霧がかかる時が多く残念)。宮之浦岳から、永田岳やヤクザサ帯を通る登山道を見るのが良い。【⑥】</li> <li>ヤクザサ帯を歩いている際、雲が同じ目線に来る時があったのが印象的。【⑥】</li> <li>いくつも積み重なった花崗岩の巨岩の風景。生い茂るヤクシマザサと岩が印象的。【雑誌】</li> <li>稜線沿いでの奇岩が散りばめられたような眺望。【WS】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の区の岳参りの道であり、屋久島ならではの自然観や信仰心、歴史を学ぶことができる道。花之江河、栗生岳、宮之浦岳といった各所に岳参りの祠があり、また、岳参りで重要な意味をもつシャクナゲの花・枝を頂くといった行為が行われる道。【⑧】【⑭】</li> <li>雲に深く包まれる神様の棲む聖域。島の核心部。岳参りのために先人が切り開いた道の、簡単には人を寄せ付けない崇高な雰囲気。【雑誌】</li> </ul>

※「No.4 淀川入口～黒味岳往復」重複区間の魅力参照。

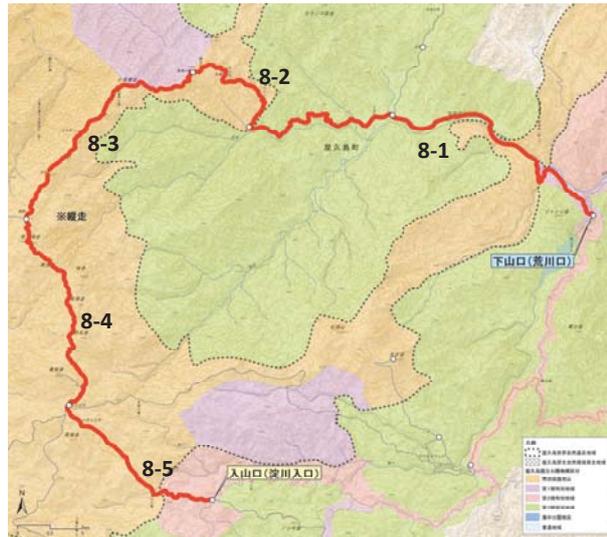
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
行程	<ul style="list-style-type: none"> <li>行程が長く、長時間の歩行が必要になるため、日帰りの往復は推奨できない。個人として登るのは構わないが、ガイドコースのメニューとすることはどうなのか。【①】</li> <li>宮之浦往復は長時間の行程となるため1泊ルートにするべき。【④】</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況を考えると、トイレが山中(花之江河あたり)にあった方が良い。【②】</li> </ul>
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>道迷いが多いルートでもあるため、安全対策に関する注意喚起・情報提供が足りない。【②】</li> <li>冬季は積雪により道が分かりにくくなり、道を見失う可能性がある。【②】</li> <li>安全対策等に関する事前レクチャーの必要性がある。【②】</li> <li>ヤクザサ帯では天候の急変や霧による視界不良が多く、注意が必要。雷雨の時には逃げ場が無くなる。登山技術を習得した人でないと危険。【③】【⑤】</li> <li>投石平付近のロープ場に倒木があり、倒木を避けるときは危険を感じた。【⑥】</li> <li>天候悪化のリスクが大きく、緊急時に対応できる装備やリスクに対する心構えが必要。【WS】</li> </ul>
整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>投石平など、一部登山道が荒れており、沢のようになっている。登山道を保全するためにも、木道を整備しても良いのではないかと。【⑤】</li> <li>稜線沿いは雨が降ると登山道が川のようになる。【⑤】</li> </ul>
山の文化への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山者による祠の参拝は歓迎する。しかしお供え物など、物は置いていかないで欲しい。【⑧】</li> <li>登山者が祠でお参りにすることに抵抗は無い。ただ、祠をトイレとするのは止めてもらいたい。平成9年に栗生岳の祠周辺がトイレとして利用されることが発生したため注意喚起の看板を設置した。現在は改善している。【⑭】</li> <li>屋久島の山岳信仰の中心となる地域であり、「聖地に入る」という気持ちを持ってほしい。【WS】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>投石平付近の水場が分かりにくい。水を汲むときに人が来ると避けられずに道を塞いでしまう。【⑥】</li> </ul>
※「No.4 淀川入口～黒味岳往復」重複区間の留意点等参照。	

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3



No.6	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 (1泊)	総コース タイム	13:40	行程 淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒ 縄文杉⇒荒川口 新高塚小屋・高塚小屋宿泊
区間	8-5、8-4、8-3、8-2、8-1	総距離 標高差	20.6km (1,336m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WSでの議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。</li> </ul>	

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主稜線部での盆栽のように矮小化した杉と、縄文杉付近の恵まれた環境での杉の生育状況の違いを実感できる。【①】</li> <li>・同じ植物の、低地と高山域での形質の違い(高所型)を理解することができる。【③】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい眺望点が多い。【⑤】</li> <li>・ヤクザサ帯から見える奇岩。有名な岩だけではなく、個人的に気になる形もあって面白い。【⑥】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦走を通じて、岳参りや林業といった、森と人との関わりを体感することができる。【WS】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川口から宮之浦岳にかけては屋久島を総覧できる、屋久島そのものを理解するために良いルート(逆区間も含めて)。人の暮らしにも関わる安房川全水系を巡る。【④】</li> <li>・景色や植生が移り変わって、屋久島の登山の醍醐味を味わうことができる。【⑤】</li> <li>・縦走路の長い距離を歩き切った達成感。山の厳しさを感じながら目標の行程を歩き切る達成感。【③】</li> <li>・晴れている時のテント泊は楽しい。ただ、雨の日はつらい。【⑥】</li> <li>・縦走することで、多様な体験ができ、複数の魅力を楽しむことができる。宮之浦岳の頂上に到達できる良さ、縄文杉の良さの両方を体感できる。【WS】</li> <li>・縦走の利用者が少ないことにより、他の利用者を気にせず、静かに自分の世界に浸ることができる。集中して自然と対峙できる。【WS】</li> <li>・宿泊想定のため、時間に余裕があるので、気持ちにも余裕ができる。【WS】</li> <li>・管理者のいない避難小屋に泊まるなど、日常では体感できない不便さを楽しむことができる。【WS】</li> <li>・非日常的な体験ができ、このような体験を通じて同行メンバーと密接な交流ができる。子供に尊敬される。【WS】</li> </ul>

※「No.4 淀川入口～黒味岳往復」「No.5 淀川入口～宮之浦岳往復」「No.2 縄文杉線往復・1泊」重複区間の魅力参照

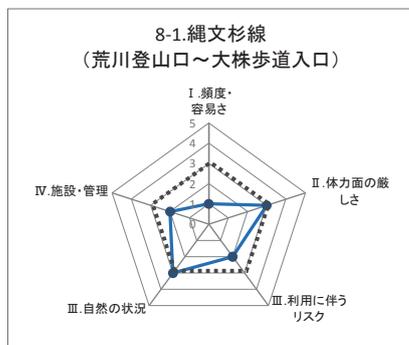
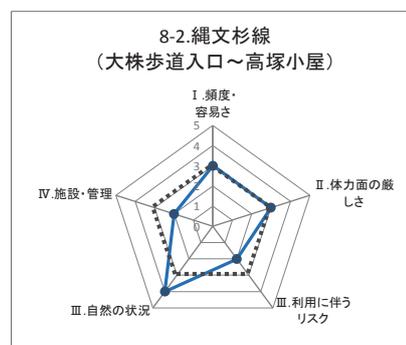
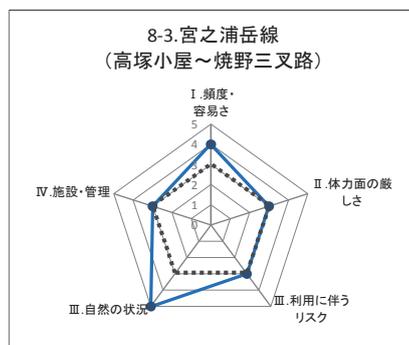
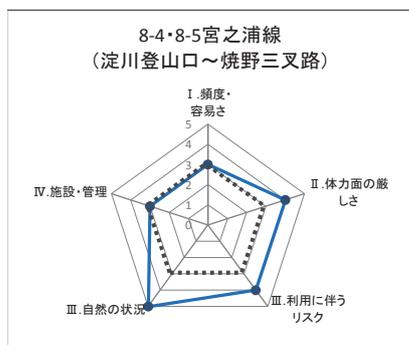
## 3.利用の際の留意点・その他ご意見

安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦走を軽々しく思っただけではない。相応の覚悟をもってもらいたい。宿泊に伴う知識や経験、十分な体力と装備が必要【WS】</li> <li>・山小屋に宿泊できるか分からないため、それに対応する装備等も必要。【WS】</li> </ul>
整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して自然に対峙するには、人工物や人との出会いの頻度は少ない状況が望ましい。【WS】</li> </ul>

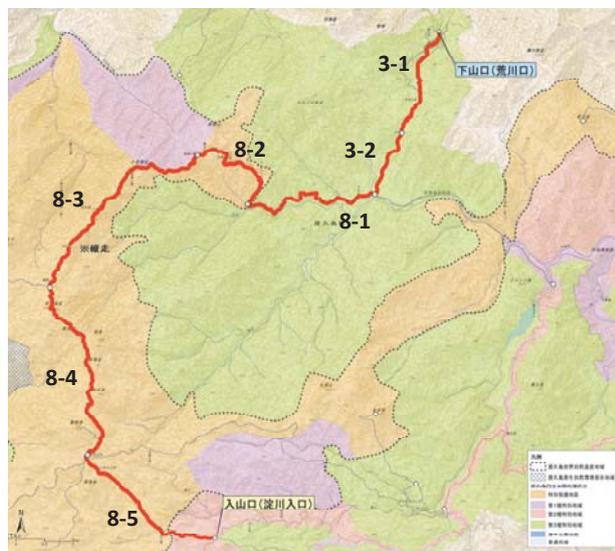
※「No.4 淀川入口～黒味岳往復」「No.5 淀川入口～宮之浦岳往復」「No.2縄文杉線往復・1泊」重複区間の留意点等参照

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4	3	3	5	3
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2



No.7	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡(1泊)	総コースタイム	14:35	行程	淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒縄文杉⇒楠川分かれ⇒白谷雲水峡入口 新高塚小屋・高塚小屋宿泊
区間	8-5、8-4、8-3、8-2、8-1(大株歩道入口～楠川分かれ区間)、3-2、3-1(辻峠～白谷雲水峡入口区間)	総距離 標高差	19.5km (1,326m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	

2.ルートの魅力

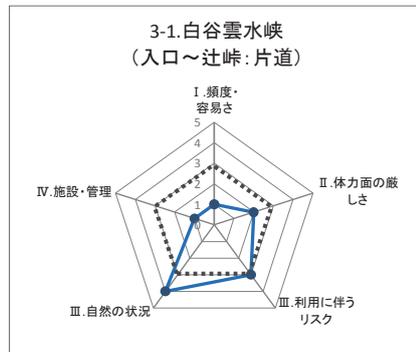
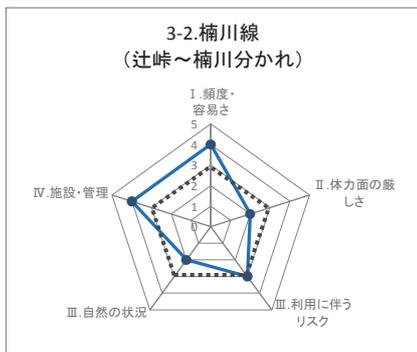
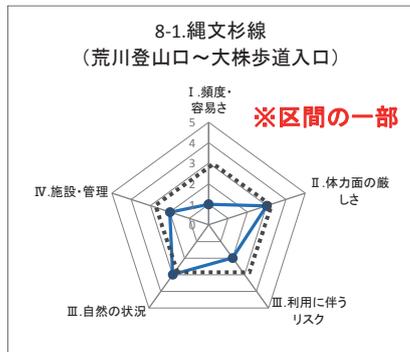
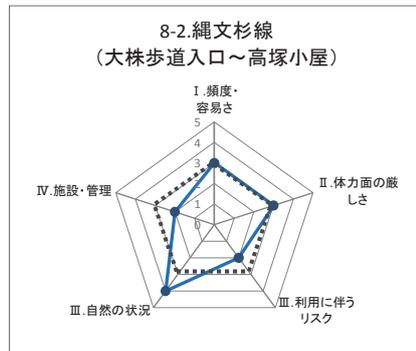
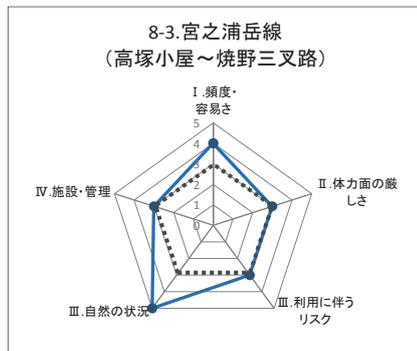
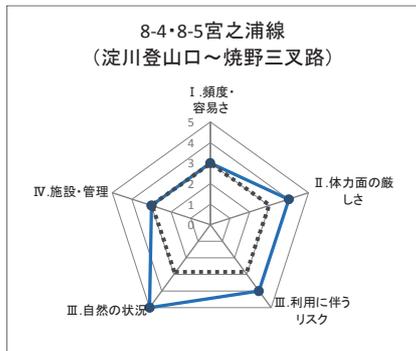
※「No.6 淀川入口～宮之浦岳～荒川口縦走」「No.3 荒川口～縄文杉～白谷雲水峡」重複区間の魅力参照。

3.利用の際の留意点・その他ご意見

※「No.6 淀川入口～宮之浦岳～荒川口縦走」「No.3 荒川口～縄文杉～白谷雲水峡」重複区間の留意点等参照。

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4	3	3	5	3
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	4	2	3	2	4
3-1	白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	1	2	3	4	1



No.8	永田歩道入口～永田岳往復 (1泊)	総コース タイム	19:30	行程	永田歩道入口～永田岳(往復) 鹿之沢小屋宿泊
区間	4-1、4-2、4-3往復	総距離 標高差	19.6km (1,796m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	<p>以下の点を考慮し、ランク5を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。</li> <li>・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。</li> </ul>	

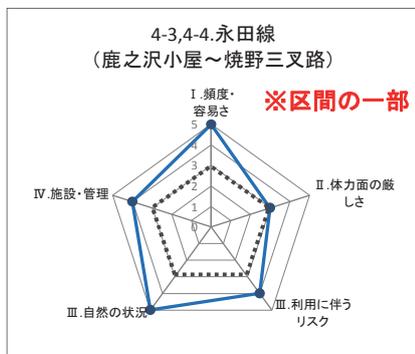
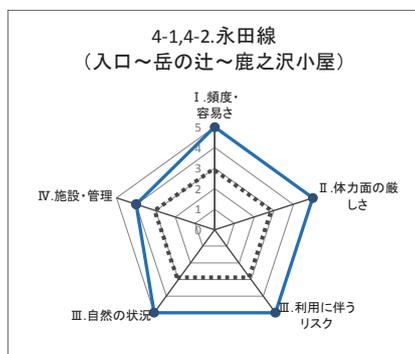
2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒノキの大木(左捲大檜)。【②】</li> <li>・桃平広場の景色。【②】</li> <li>・七ツ渡シの徒渉点の風景。【②】</li> <li>・春の時期のシャクナゲの花が咲いた風景は美しい。【⑬】【⑮】</li> <li>・永田岳付近の尾根部から枯存木を見ることができる。【⑬】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・永田岳からの眺望は素晴らしい。海岸線を見渡すことができる。口永良部島が浮いているように見える。【①】【②】【⑬】</li> <li>・永田岳山頂は屋久島で最もブロッケン現象を見ることができる場所だと思う。【①】</li> <li>・ローソク岩等の奇岩を見ることができる。【⑤】</li> <li>・鹿之沢小屋に宿泊し、朝の永田岳からの眺望が素晴らしい。永田集落や海岸を一望できる。【⑫】【⑮】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・永田区の岳参りの道。永田岳頂上の祠。【⑬】</li> </ul>

### 3.利用の際の留意点・その他ご意見

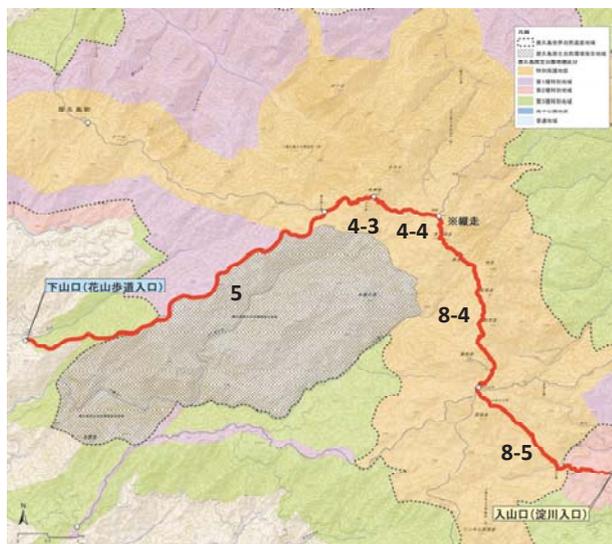
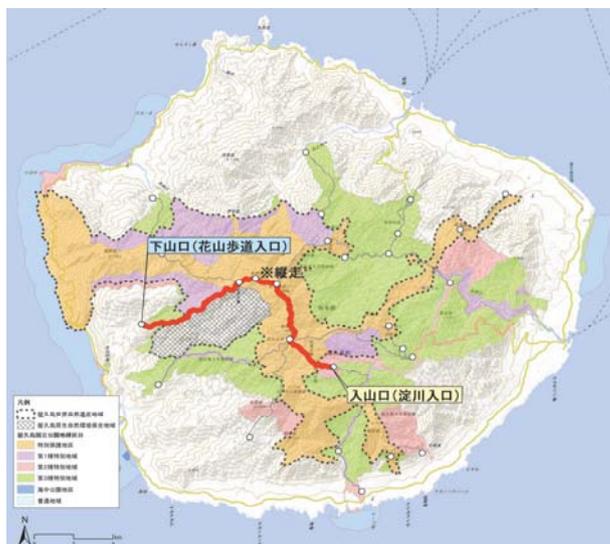
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道迷いのリスクが高い。【②】</li> <li>・永田線の森林部の区間は道が分かりづらい。最も道迷いのリスクが高い区間だと思う。【⑤】</li> <li>・永田線は厳しい道であるため、どのルートで通過するにしても健脚・経験豊富な登山者に利用して欲しい。【⑬】</li> </ul>
整備全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登りやすくなるような整備は望んでいない。厳しい道であるということは登山客にしっかり情報提供し、登山者は自己責任で利用してもらいたい。【⑬】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・永田線は水場が少ない。【②】</li> <li>・ヒルが多い。</li> </ul>

### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4
4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4



No.9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳 ～鹿之沢小屋～花山歩道入口 (1泊)	総コース タイム	13:55	行程 淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒ 永田岳⇒鹿之沢小屋⇒花山歩道 入口 鹿之沢小屋宿泊
区間	8-5、8-4、4-4、4-3、5	総距離 標高差	15.5km (1,426m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	<p>以下の点を考慮し、ランク5を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。</li> <li>・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回検討会において、「湯泊歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。</li> <li>・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なルートとすることを目指し、適切な整備・管理水準とすることを想定。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花山広場周辺の杉の巨木の森。【①】【②】【⑤】</li> <li>・花山線のヒノキの大木。ハリギリの大木。【①】【②】</li> <li>・花山線は眺望が開ける場所は無いため、植物に興味がある人に向いている。【③】</li> <li>・スギの美しい再生林を見ることができる。【③】</li> <li>・シャクナゲを最も多く見ることができるルートだと思う。【⑤】</li> <li>・花山線の原生林の雰囲気は本当に素晴らしい。【⑤】</li> <li>・花山線の素晴らしい杉の森の風景。杉の多さに驚いた。【⑫】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小鹿之沢の風景は美しい。【①】</li> <li>・以前は宮之浦川と栗生川の源流部を見ることができた。現在はヤクザサが繁茂し見ることができない。【①】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産地域、原生自然環境保全地域を歩くことができる。【②】</li> </ul>
<p>※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の魅力参照。</p>	

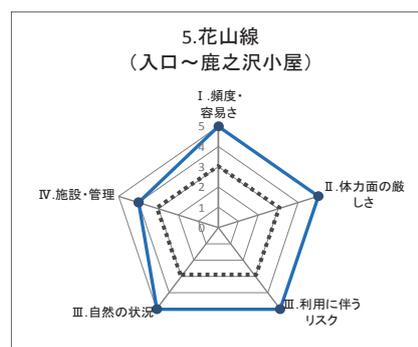
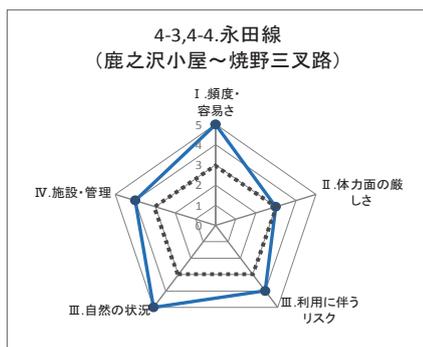
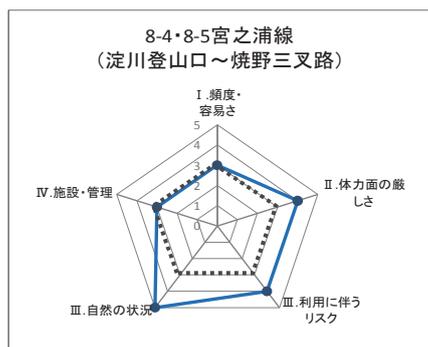
### 3.利用の際の留意点・その他ご意見

安全面	・距離が長く、体力的にも厳しい。【①】
	・道迷いのリスクが高い。【②】
	・焼野三叉路から永田岳の区間の登山道が荒廃しており、歩きづらく、ケガのリスクもある。対策が必要。【①】【②】
	・花山線は常に森の中を歩くことになるため、視界が悪い。【⑤】
整備	・花山歩道は今以上の整備をしてもらいたくない。登山者にもあまり利用して欲しくない。【③】
その他	・花山歩道入口はアクセスが困難。【②】 ・ヒルが多い。【⑤】

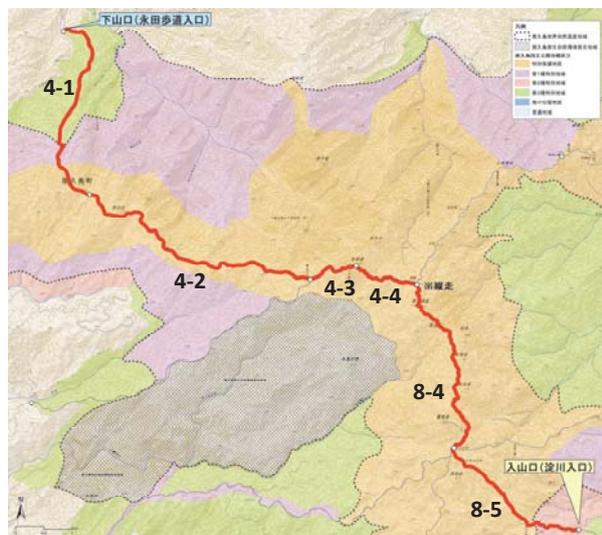
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の留意点等参照。

### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4
5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4



No.10	淀川入口～宮之浦岳～永田岳 ～鹿之沢小屋～永田歩道入口 (1泊)	総コース タイム	15:25	行程 淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒ 永田岳⇒鹿之沢小屋⇒永田歩道 入口 鹿之沢小屋宿泊
区間	8-5、8-4、4-4、4-3、4-2、4-1	総距離 標高差	18.0km (1,846m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力

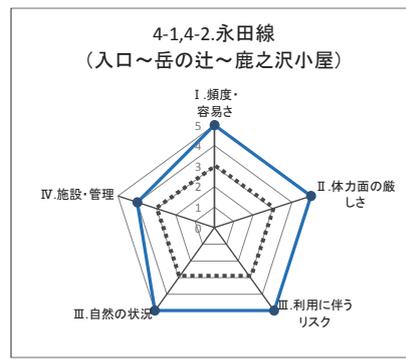
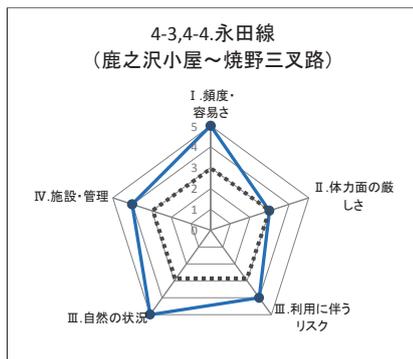
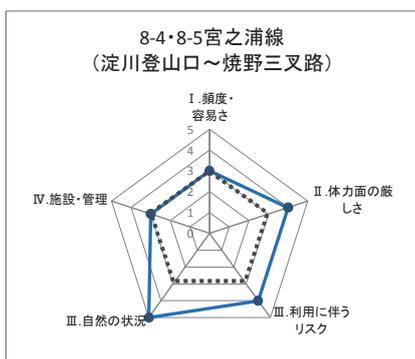
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の魅力参照。

3.利用の際の留意点・その他ご意見

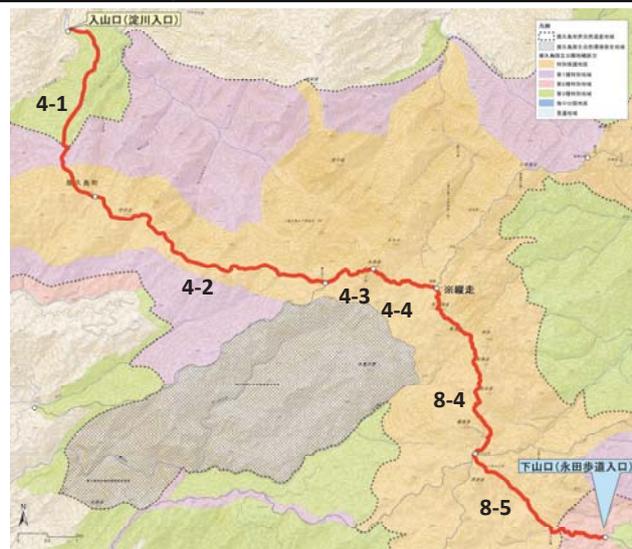
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の留意点等参照。

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4
4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4



No.11	永田歩道入口～永田岳～宮之浦岳～淀川入口（1泊）	総コースタイム	17:15	行程	永田歩道入口⇒鹿之沢小屋⇒永田岳⇒宮之浦岳⇒花之江河⇒淀川入口 鹿之沢小屋宿泊
区間	4-1、4-2、4-3、4-4、8-4、8-5	総距離 標高差	18.0km (1,846m)		



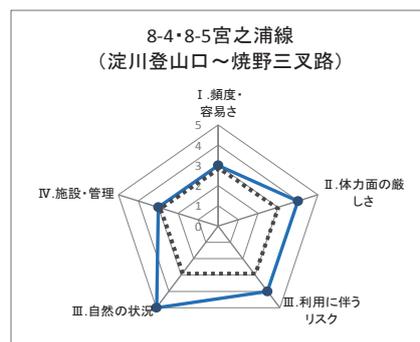
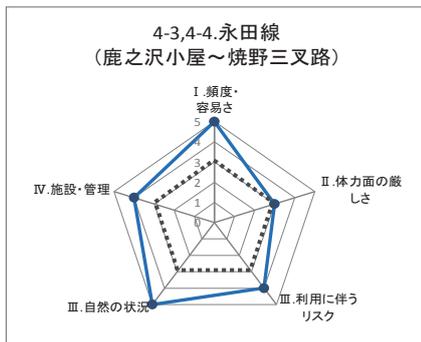
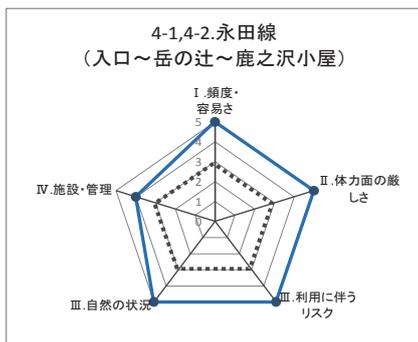
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力	
その他	・海拔0mから縦走登山をできる楽しみ。上級者のこだわり。【⑤】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の魅力参照。	

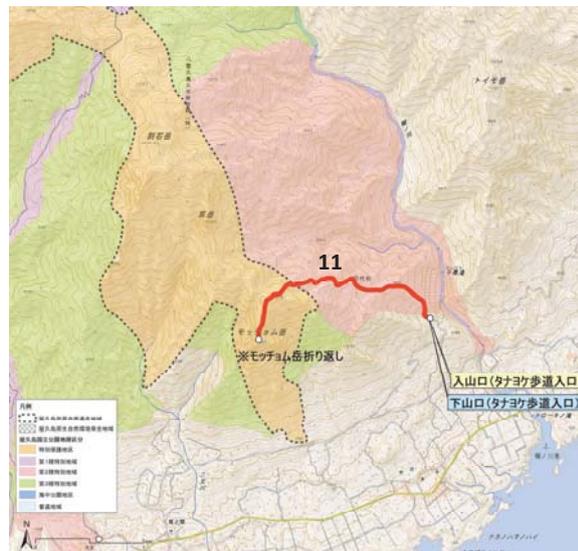
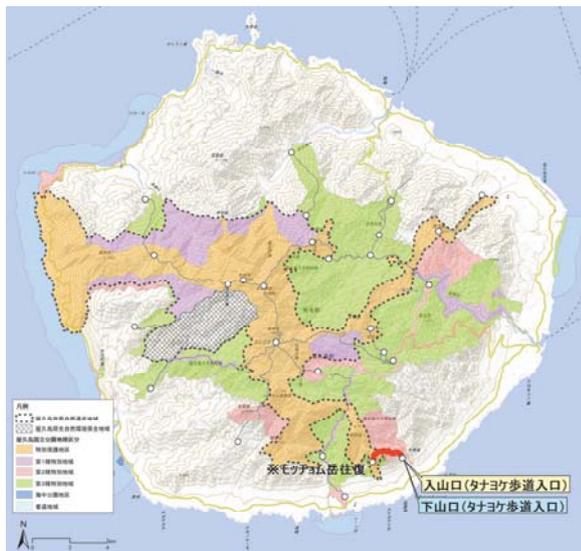
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・永田線の長い登り区間を含んでおり、体力的に非常に厳しい。【⑤】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.5淀川入口～宮之浦岳往復」「No.8永田歩道入口～永田岳往復」重複区間の留意点等参照。	

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4
4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3



No.12	モッコム岳 往復 (日帰り)	総コース タイム	6:20	行程 タナヨケ歩道入口⇒モッコム岳 (往復) 日帰り
区間	11 往復	総距離 標高差	4.6km (709m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。

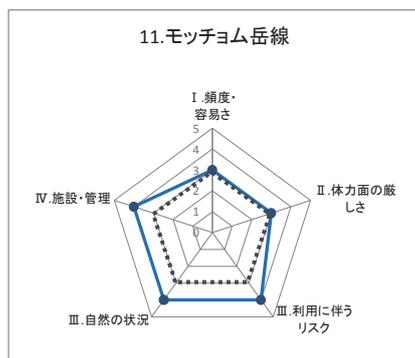
2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万代杉は見どころ。【②】</li> <li>・万代杉を下った付近にある、苔の綺麗な沢。【②】</li> <li>・1000m以下の標高で希少な植物を見ることができる。【②】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩場や沢がある面白いルート。【①】</li> <li>・山頂からの眺望が素晴らしい。【①】</li> <li>・巨岩がある。【②】</li> <li>・モッコム太郎周辺からの眺望が良い。【②】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モッコム太郎の少し上の杉の切株はおそらく1000年以上前に切られたものと思われ、歴史を感じられる。【①】</li> <li>・山頂の岳参りの祠。【②】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬でもほとんど雪が降らず、季節風も吹かないため、冬季の登山可能。【①】【②】</li> <li>・日帰り登山として利用しやすいルート。【⑥】</li> </ul>

## 3.利用の際の留意点・その他ご意見

安全面	・夏は非常に暑く、厳しい。熱中症のリスクが高い。【①】
	・雨の時は木の根が滑りやすく、危険。【①】
	・高度感があるため、高所が苦手な人には厳しい。【②】
	・距離に比べて高低差があるため、相応の体力が必要。【②】
	・ロープを使って登る箇所が多いため、ロープの定期的な点検が必要。【②】
	・最後に岩場があるが、どこに足を置いたら良いのか分かりづらい。【⑥】

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
11	モッチョム岳線	3	3	4	4	4



No.13	愛子岳 往復 (日帰り)	総コース タイム	7:30	行程 愛子岳歩道入口⇒愛子岳山頂 (往復) 日帰り
区間	2 往復	総距離 標高差	7.6km (1,065m)	



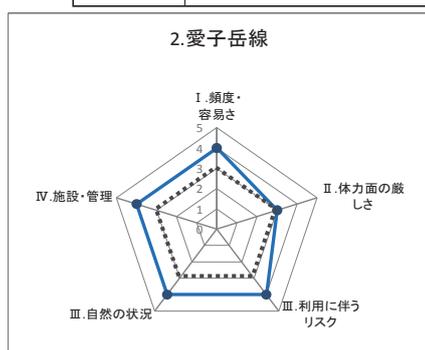
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。

2.ルートの魅力	
自然	・登山口付近の照葉樹林が素晴らしい。【②】
景色・眺望	・山頂からの眺望が良い。【②】
歴史・文化	・山頂の岳参りの祠。【②】
その他	・唯一、登山口から世界遺産地域に含まれるルート。【②】

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	・トイレが無い。【②】
安全面	・ロープ場のロープの点検・整備が必要。【②】
	・山頂付近など道迷いしやすい場所が多い。【②】 ・山頂付近での落石に注意。【②】
その他	・水場が無い。【②】

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
2	愛子岳線	4	3	4	4	4



No.14	龍神杉 往復 (日帰り)	総コース タイム	7:15	行程	益救参道入口⇒龍神杉(往復) 日帰り
区間	1 往復	総距離 標高差	9.0km (1,050m)		



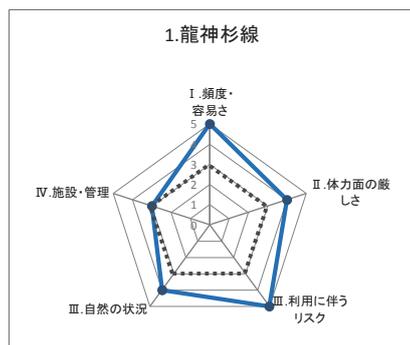
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石畳などを楽しむことができるルート。また、トロッコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・徒渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。 ・リスク低減のための整備を行い、ランク3のルートとすることを想定。

2.ルートの魅力	
自然	・龍神杉、雷神杉、風神杉といった杉の大木が見どころ。【②】 ・ゲートから歩道入口の間の、苔の生えた石畳。【②】
歴史・文化	・昔使われていたトロッコ道跡がある。【②】
その他	・龍神水の水。【②】

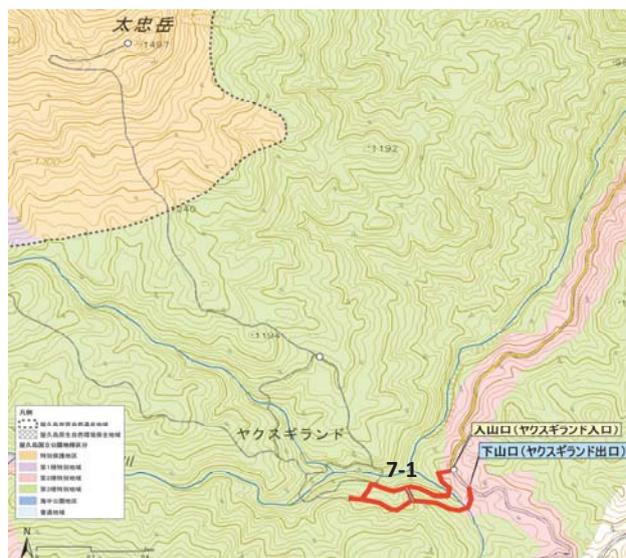
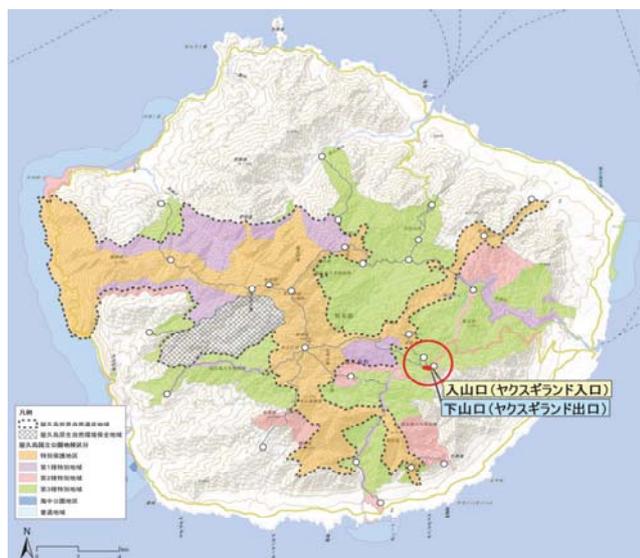
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	・トイレが無い。【②】
安全面	・距離に比べて高低差があるため、相応の体力が必要。【②】 ・渡渉点があるため、注意が必要。【②】 ・利用者が少ないため、アクシデントの際に助けを求められない。【②】 ・石段が整備されているため、下りの際に膝に負担がかかる。【③】

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しき	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
1	龍神杉線	5	4	5	4	3



No.15	ヤクスギランド30分・50分コース	総コース タイム	0:30/0:50	行程	ヤクスギランド入口⇒ヤクスギラ ンド30分コース・50分コース⇒ ヤクスギランド出口 日帰り
区間	7-1 ヤクスギランド30分・50分 コース	総距離 標高差	0.8km/1.2km (30m)		



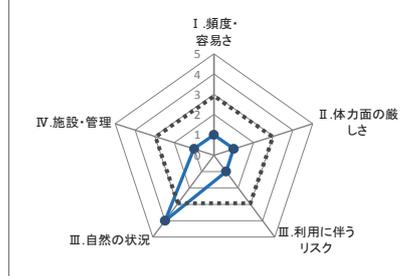
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
1	※第3回検討会時に決定。	

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生した杉の美林や杉の大木を見ることができる。【③】</li> <li>緑深い原生林に1000年以上生きるヤクスギが多く点在。千年を超える巨木を手軽に鑑賞できる。【雑誌】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>白谷雲水峡ほど表土が多くないためか、川の水が非常に透き通って美しい。【①】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>森の歴史、人の歴史が感じられる。【①】</li> <li>杉の古い切り株から昔の林業の文化を知ることができる。切り方によって時代が違う。昔の割板も残されている。【③】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>白谷雲水峡よりも体力的に楽に歩くことができる。【①】</li> <li>スノーカーで歩くことができる。【⑤】</li> <li>子供たちを連れて森を散策するには良い場所。木道が整備されている。【⑥】</li> <li>歩道がしっかりと整備されている。30分・50分コースは木道が続き、深い森ながらも身軽なスタイルで散策可能。【雑誌】</li> <li>雨の日の風景は魅力的。苔についた水滴を見るなど、傘を差しながら雨の日でも楽しめる。【検討会】</li> <li>「森と人のフィールドミュージアム」そのものであると思う。【検討会】</li> </ul>

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
看板	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内看板を数多く設置したとしても、利用者はあまり読まない上、景観上も良くない。【③】</li> <li>過去の林業の歴史について、より詳細に学ぶことができる看板があると良い。【検討会】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理人やガイドがその日の状況に応じて解説した方が利用者には伝わりやすいだろう。50分コースは2時間でゆっくり説明したい。【③】</li> </ul>

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1

7-1.ヤクスギランド・50分コース  
(入口～仏陀杉～出口)

No.16	ヤクスギランド80分コース	総コース タイム	1:20	行程 ヤクスギランド入口⇒ヤクスギラ ンド80分コース⇒ヤクスギランド 出口 日帰り
区間	7-1 ヤクスギランド80分コース	総距離 標高差	2.0km (30m)	



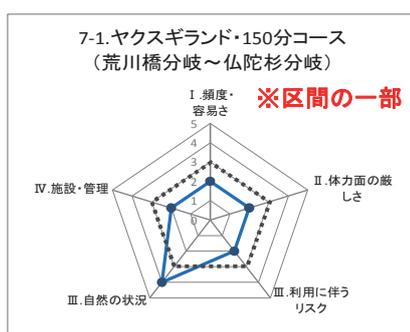
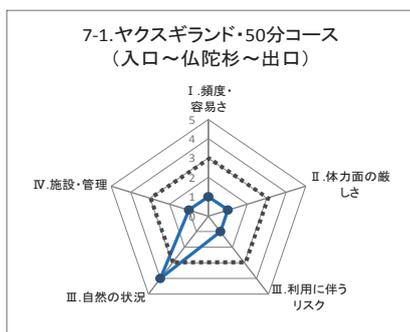
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>2</b>	・コースタイムや距離は比較的短い、整備状況等を踏まえランク2を想定。	

2.ルートの魅力	
自然	・河原では屋久島固有の植物を見ることができる。【③】 ・様々な花を見ることができる。つつじ河原では6月にはサツキの花が咲き乱れる。【⑤】【雑誌】
景色・眺望	・吊り橋からの川の風景は美しい。つり橋の上から巨岩と清流が織りなす渓谷美を見ることができる。【①】【雑誌】 ・河原に降りることができる。つつじ河原。【⑤】
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」重複区間の魅力参照。	

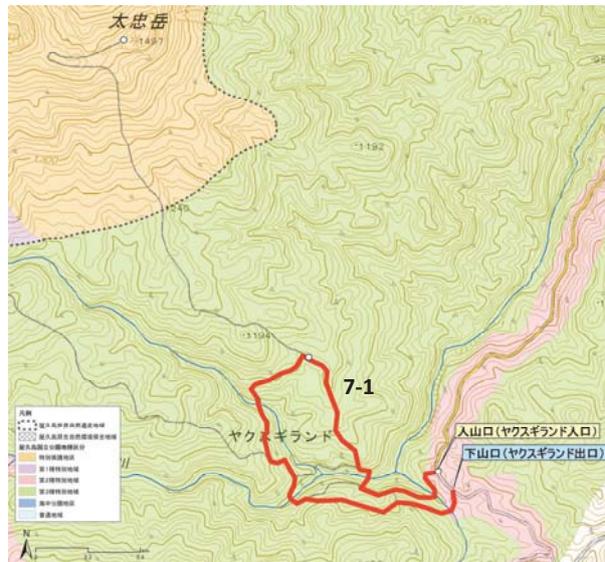
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	・コース上にトイレが無い。【②】
その他	・つつじ河原での、川の水が増水した際の注意喚起等の対応【②】
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」重複区間の留意点等参照。	

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2



No.17	ヤクスギランド150分コース	総コース タイム	2:30	行程 ヤクスギランド入口⇒ヤクスギ ランド150分コース⇒ヤクスギランド 出口 日帰り
区間	7-1 ヤクスギランド150分コー ス	総距離 標高差	2.7km (105m)	



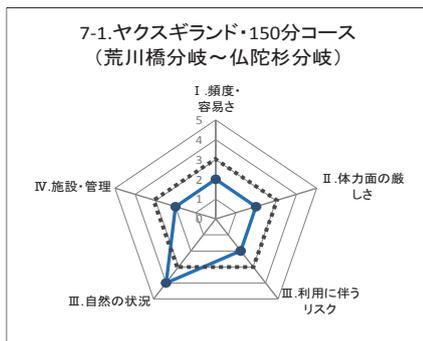
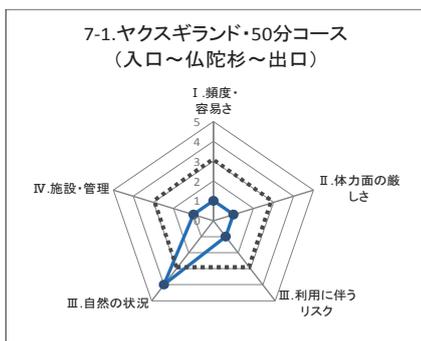
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	

2.ルートの魅力  
 ※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の魅力参照。

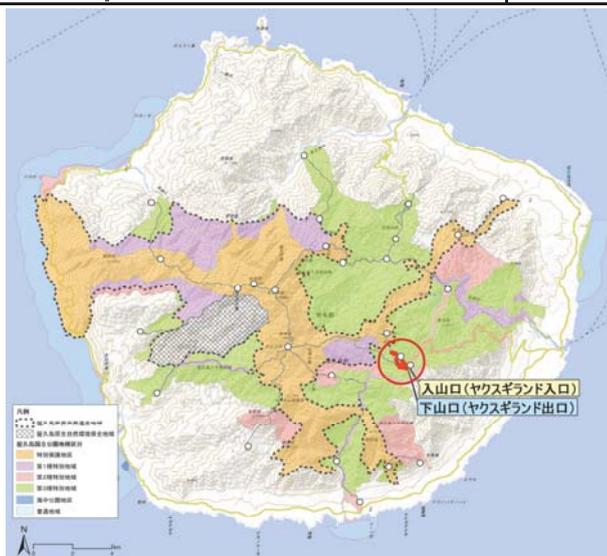
3.利用の際の留意点・その他ご意見  
 ※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の留意点等参照。

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2



No.18	ヤクスギランド210分コース	総コース タイム	3:30	行程 ヤクスギランド入口⇒ヤクスギ ランド210分コース⇒ヤクスギランド 出口 日帰り
区間	7-1、7-2(蛇紋杉～天文の森区 間) ヤクスギランド210分コー ス	総距離 標高差	4.0km (220m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>2</b>	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	

2.ルートの魅力	
自然	・天文の森の苔むした風景が素晴らしい。【④】
歴史・文化	・天文の森に至る道などでは昔の板木が落ちており、江戸時代からの林業の歴史を感じられる。【①】

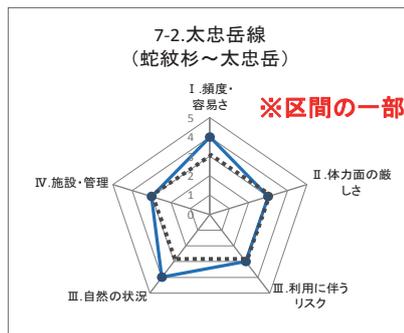
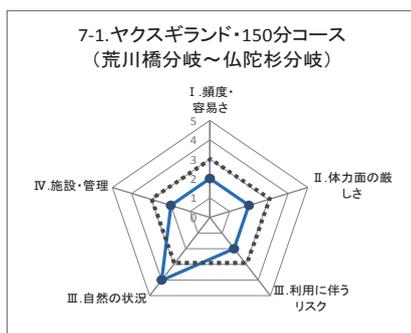
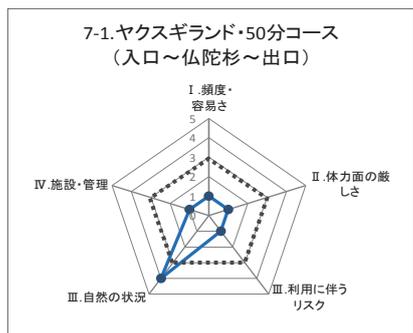
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」No.17「ヤクスギランド150分コース」重複区間の魅力参照。

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
その他	・天文の森は九州大学がモニタリングを実施しているため、そのデータを用いて学習の森として活用することを提案する。【④】

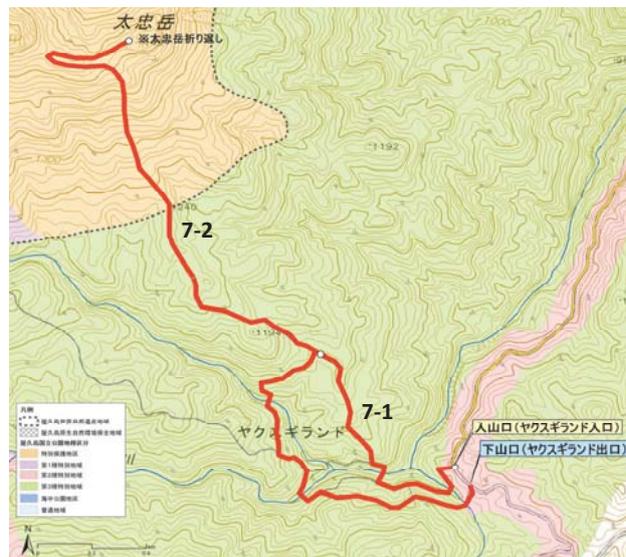
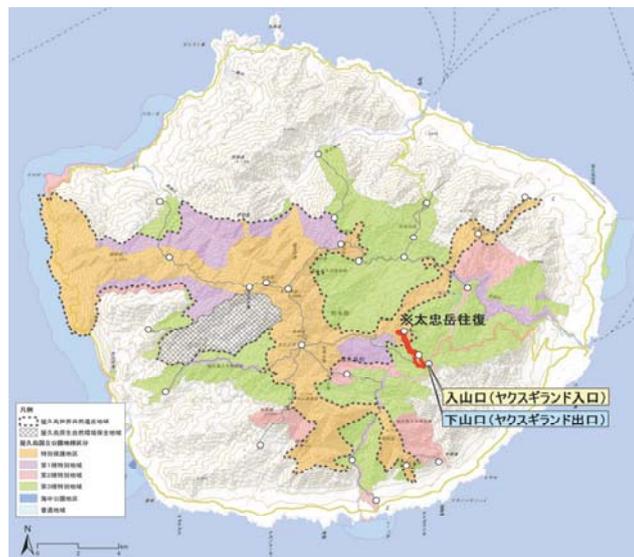
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」「No.17ヤクスギランド150分コース」重複区間の留意点等参照。

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2
7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	4*	3	3	4	3



No.19	ヤクスギランド～太忠岳往復 (日帰り)	総コース タイム	6:35	行程	ヤクスギランド入口⇒太忠岳⇒ ヤクスギランド出口 日帰り
区間	7-1(ヤクスギランド150分コー ス)、7-2往復	総距離 標高差	6.8km (497m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>3</b>	<p>以下の点を考慮し、ランク3を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。</li> <li>・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートを歩くなかで植生の変化を感じられる。【①】</li> <li>・天文の森を少し過ぎた辺りの苔と杉林の風景が美しい。【②】</li> <li>・世界遺産地域の杉天然林を見ることができる。【②】</li> <li>・シャクナゲの花を見ることができる。【②】【⑤】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太忠岳頂上付近の大岩からの眺望は素晴らしい。【①】【②】【⑤】【⑮】</li> <li>・天柱石が見どころ。【②】【⑮】</li> <li>・景観がダイナミック。【④】</li> <li>・森と水との関わりを体感できる。【④】</li> <li>・太忠岳は海が見える最も近い山。【④】</li> <li>・冬には雪が積もることもある。【⑤】</li> <li>・屋久島の山の縮図だと感じるルート。【⑤】</li> <li>・冬の時期の雪の積もったモミ・ツガの森の風景が美しい。【⑮】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山頂の岳参りの祠。ヤクスギランドから太忠岳までは安房集落の現在の岳参りの道の一つ。【②】【⑩】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日帰りの登山ルートとして、手軽に登ることができる。【⑮】</li> </ul>

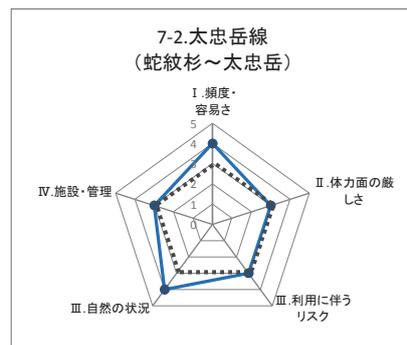
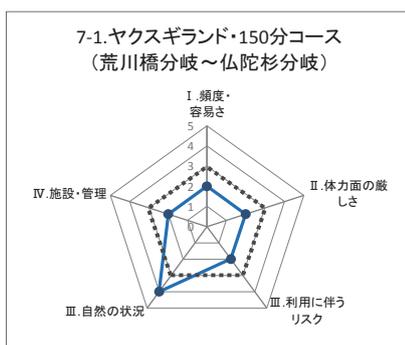
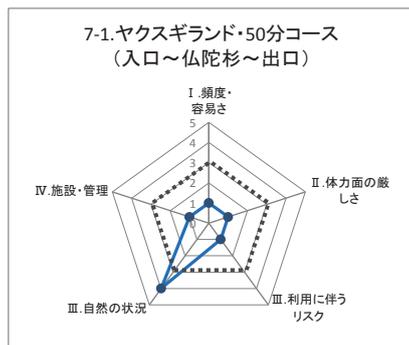
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」「No.17ヤクスギランド150分コース」「No.18ヤクスギランド210分コース」重複区間の魅力参照。

## 3.利用の際の留意点・その他ご意見

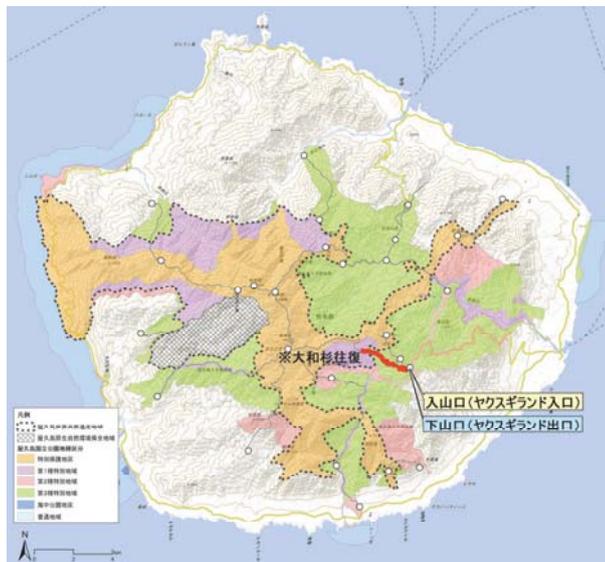
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」「No.17ヤクスギランド150分コース」「No.18ヤクスギランド210分コース」重複区間の留意点等参照。

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2
7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	4*	3	3	4	3



No.20	ヤクスギランド～大和杉往復 (日帰り)	総コース タイム	5:50	行程 ヤクスギランド入口⇒花之江河登 山道入口⇒大和杉 往復(ヤクス ギランド80分コース 経由) 日帰り
区間	7-1(ヤクスギランド80分コー ス)、6(ヤクスギランド～大和杉 区間)往復	総距離 標高差	5.5km (310m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>3</b>	<p>以下の点を考慮し、ランク3を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。</li> <li>・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りの際、留意点として「道迷いしやすい箇所がある」という意見が挙げられた。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和杉が見どころ。【②】</li> <li>・苔むした風景や原生林を体感できる。【②】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産地域を歩くことができる。【②】</li> </ul>

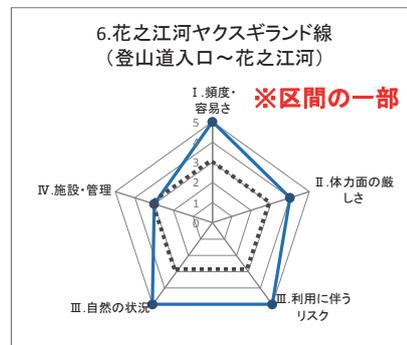
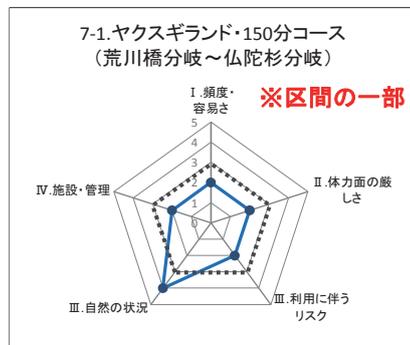
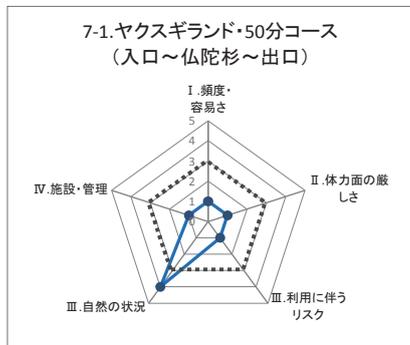
※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の魅力参照。

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレが少ない。【②】</li> </ul>
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花之江河登山道入口から大和杉までは道迷いをしやすい箇所がある。【②】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水場が少ない。【②】</li> </ul>

※「No.15ヤクスギランド30分・50分コース」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の留意点等参照。

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2
6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	5	4	5	5	3



No.21	白谷雲水峡 弥生杉コース	総コース タイム	1:00	行程 白谷雲水峡入口⇒弥生杉コース ⇒白谷雲水峡入口 日帰り
区間	3-1白谷雲水峡弥生杉コース	総距離 標高差	1.3km (90m)	



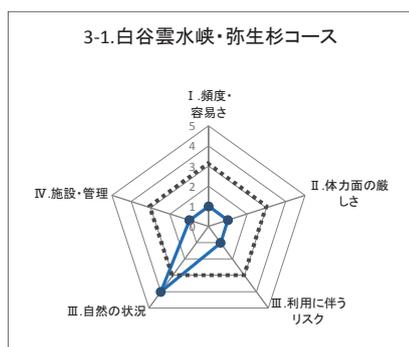
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSにおいて、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥生杉が見どころ。【②】</li> <li>ツツジの花が咲く時期の、溪流沿いの風景が良い。【⑮】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛流落としの滝、憩いの大岩の風景。【②】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスが容易で、大雨の日も歩くことができる。【②】</li> <li>短時間で屋久島の森の自然を感じられる。短い滞在で屋久島らしさを感じるには外せない場所。【②】【雑誌】</li> </ul>

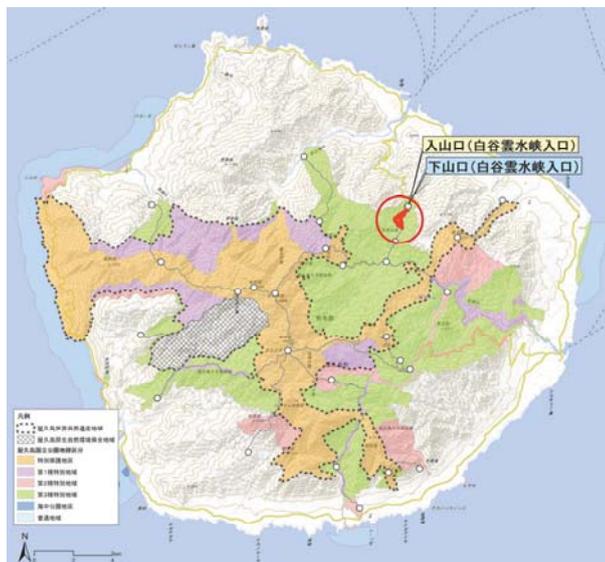
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い距離で高低差があり、登りがきつい。高齢者には厳しい面がある。【WS】</li> <li>高齢者の方の利用が多いため、手すりが両側にあると良い。【WS】</li> <li>入口付近の岩場で、転倒などに関して注意が必要。【WS】</li> </ul>

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1*</b>	<b>4</b>	<b>1</b>



No.22	白谷雲水峡 奉行杉コース	総コース タイム	3:15	行程 白谷雲水峡入口⇒奉行杉コース ⇒白谷雲水峡入口 日帰り
区間	3-1白谷雲水峡奉行杉コース	総距離 (標高差)	3.1km (230m)	



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。</li> </ul>

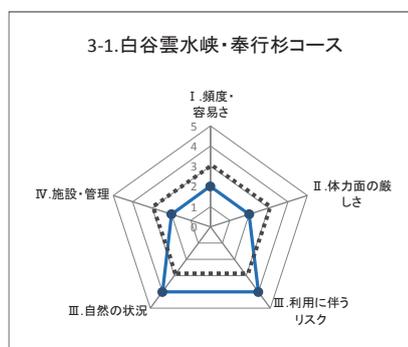
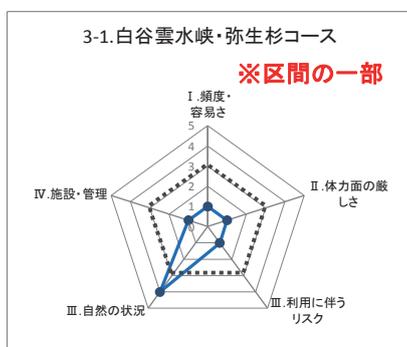
2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>雲霧帯の環境のため、苔や着生木を見ることができる。【①】</li> <li>ヤクスギランドより腐葉土も多く、成長の良い杉を見る事ができる。【①】</li> <li>かつて本州で見ることができた照葉樹の原生林を体感できる。【③】</li> <li>沢に橋が無く、自然の状態の森を体感できる。【②】【⑤】</li> <li>ハリギリ、ヤマグルマの巨木を見ることができる。【③】</li> <li>さつき橋付近の溪流沿いの風景。特に、春のサクラツツジの花が咲く時期は素晴らしい。また、時期によって様々な花を見ることができる。【⑤】</li> <li>古い杉の巨木を見ることができる。【⑤】【雑誌】</li> <li>ゆっくりと屋久島の森を楽しむことができる。利用者も少なく、多様な森の楽しみ方ができる。【WS】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の人が森を利用した歴史を感じることができる。【①】</li> <li>江戸時代の杉の切り残しや切り株から歴史を感じる。【③】</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>原生林歩道は、雨の時は徒渉点が増水し危険だが、平常時はスリルを楽しめる。歩く環境も変化に富んでいる。【①】</li> <li>夏場でも、木が生い茂っているため涼しい。【⑤】</li> </ul>
※「No.21白谷雲水峡・弥生杉コース」重複区間の魅力参照。	

## 3.利用の際の留意点・その他ご意見

安全面	・雨が降ると徒渉点が増水し、危険。大雨の際は利用できない。【①】
	・雨天時の徒渉点の増水に関する広報・注意喚起が必要。【②】
	・根が露出し滑りやすいことため注意する必要がある。【②】
	・徒渉点が滑りやすい。増水時は危険。【⑤】
	・アップダウンが意外と厳しい。【WS】
その他	・ピンクテープが過剰に設置されていると感じる。景観上、好ましくない。【⑤】

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	1	1	1*	4	1
	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	2	2	4	4	2



No.23	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	総コースタイム	3:35	行程	白谷雲水峡入口⇒辻峠⇒太鼓岩往復 日帰り
区間	3-1白谷雲水峡(入口～辻峠～太鼓岩)往復	総距離 標高差	4.7km (460m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体方面を考慮し、ランク2を想定。(徒渉点のリスクについての対策は留意点参照)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沢沿いの苔が美しい。【③】</li> <li>・二代くぐり杉付近の分岐～辻峠は再生した杉林を見ることができる。【③】</li> <li>・杉の気根状根を観察できる。【③】</li> <li>・集落に一番近いヤクスギの分布地。【③】</li> <li>・苔の森の風景は魅力的。【⑤】【⑥】【雑誌】</li> <li>・くぐり杉や七本杉などの著名木の前ではいつも記念写真を撮影する。【⑥】</li> </ul>
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓岩からの眺望。海と山を一望できる。【②】【④】【⑤】【⑥】</li> <li>・早朝の太鼓岩からの朝日。【⑤】</li> <li>・特徴的な形状の花崗岩のある風景。【③】</li> <li>・水と森の物語を感じられるコース。【④】</li> <li>・渡渉点などでの沢の美しさ。【②】</li> <li>・徒渉点があり、川を身近に感じることができる。【④】</li> <li>・宮之浦の市街地やフェリーなどを眺めることができる。【⑬】</li> <li>・森と水が作り出す優美な光景。清流と苔むす岩の景観が美しい。【雑誌】</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伐採が古い時代に行われており、人と森との関係を実感できる。【④】</li> <li>・江戸時代に杉の搬出ルートとして使われていた楠川歩道。藩政時代の石積み歩道。かつての面影が残る道。【④】【雑誌】【WS】</li> <li>・林業の歴史、トリモチ産業の歴史を学ぶことができる。【WS】</li> </ul>

その他	・映画「もののけ姫」のイメージ。【②】
	・港から40分で登山口に着くほど近く、日帰りで見回りに良いコース。コンパクトに屋久島の森を感じることができる。【④】
	・路面が整備がされて歩きやすいので、周りの風景を楽しむ余裕がある。【⑥】
	・人が多くにぎやか。【⑥】
	・原生の森林と地床植物が作り出す艶美な風景のなかをのんびり味わいながら歩くことができる。【雑誌】
	・幸屋火砕流の跡を見ることができる。【WS】

※「No.21白谷雲水峡・弥生杉コース」「No.22白谷雲水峡・奉行杉コース」重複区間の魅力参照。

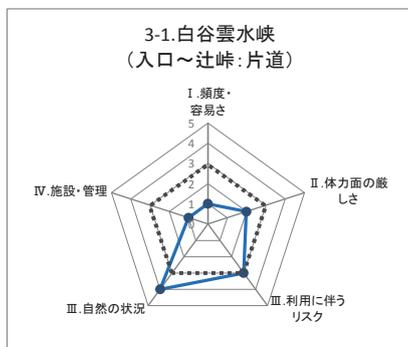
### 3.利用の際の留意点

安全面	・楠川歩道の分岐など、分岐点が多く、道迷いの可能性がある。【②】
	・徒渉点が増水すると通行できなくなる。天候判断が難しい。【②】【⑤】
	・雨の後は路面がぬかるむところがある。【⑤】
	・市街地との気温差が大きい。冬季には雪も降る。【⑤】
	・軽装で登る利用者が多い。必要な装備についての普及啓発の強化が必要。【②】
その他	・徒渉点周辺など、苔の踏み荒らしがある。利用者には気を付けて欲しい。【⑤】

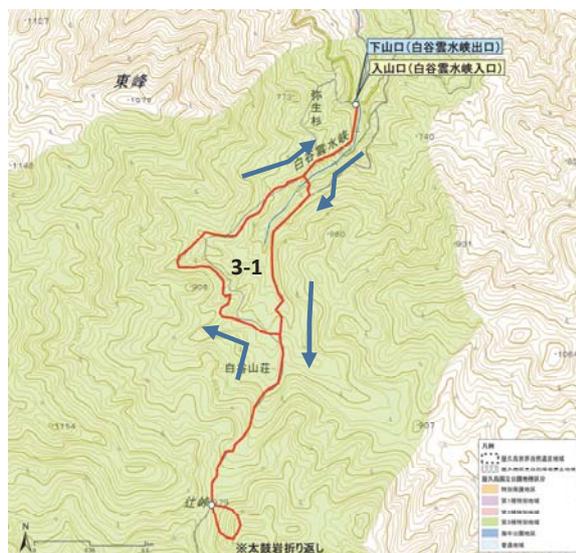
※「No.21白谷雲水峡・弥生杉コース」「No.22白谷雲水峡・奉行杉コース」重複区間の留意点等参照。

### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
3-1	白谷雲水峡 (入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1



No.24	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	総コースタイム	5:00	行程	白谷雲水峡入口⇒辻峠⇒太鼓岩⇒奉行杉コース⇒白谷雲水峡入口 日帰り
区間	3-1白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口区間	総距離 標高差	5.3km (460m)		



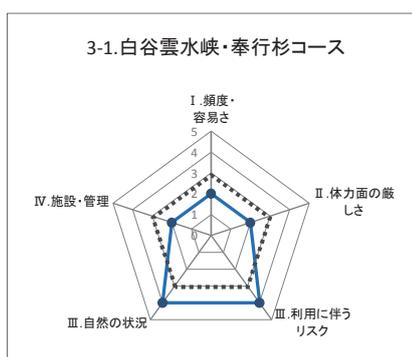
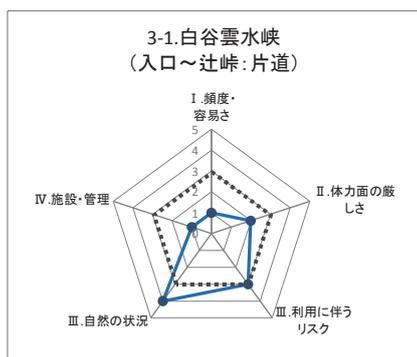
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。</li> </ul>

2.ルートの魅力	
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>素晴らしい森を連続して見ることができる。広い範囲を歩くことで、バラエティに富んだ森を楽しむことができる。【WS】</li> </ul>
※「No.22白谷雲水峡・奉行杉コース」「No.23白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩往復」重複区間の魅力参照。	

3.利用の際の留意点	
※「No.22白谷雲水峡・奉行杉コース」「No.23白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩往復」重複区間の留意点等参照。	

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
3-1	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	2	2	4	4	2
	白谷雲水峡 (入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1



No.25	尾之間歩道 歩道入口～蛇之口滝 (日帰り)	総コースタイム	4:40	行程	歩道入口～蛇之口滝 往復 日帰り
区間	12-1往復	総距離 標高差	6.8km (410m)		



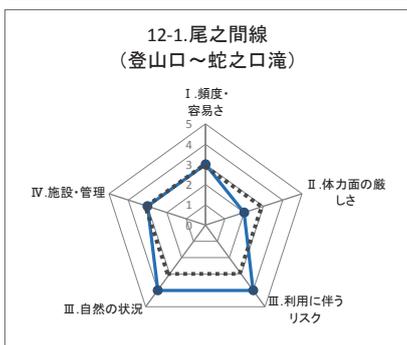
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>3</b>	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。

2.ルートの魅力	
自然	・苔やシダが豊富で、希少な植物を多く見ることができる。【②】 ・照葉樹林帯を堪能できる。【②】 ・希少な植物が多く、植物に関心のある人にとっては良いルート。【③】
景色・眺望	・蛇之口滝が見どころ。【②】
その他	・冬期に登山可能。【②】 ・入口に温泉がある。【②】

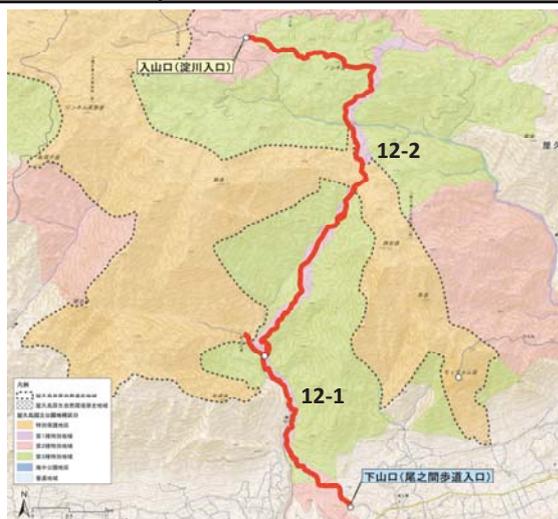
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	・トイレが無い。【②】
安全面	・渡渉点があるため、注意が必要。【②】
その他	・登山者用の駐車場が整備されていない。【②】

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>3</b>



No.26	淀川入口～尾之間歩道入口 (日帰り)	総コース タイム	8:10	行程	淀川入口(尾之間歩道方面)⇒尾之間歩道入口 日帰り
区間	12-2、12-1	総距離 標高差	11.3km (1,290m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>4</b>	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。

2.ルートの魅力	
自然	・スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感できる。【②】
景色・眺望	・割石岳を望む景色は魅力的。【①】 ・鯛之川の川沿いの風景は美しい。【①】【②】

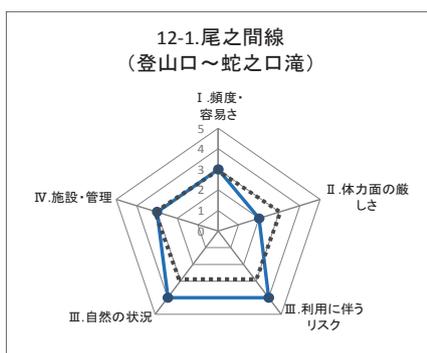
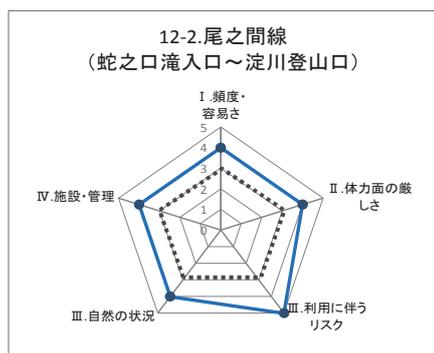
※「No.25尾之間歩道入口～蛇之口滝往復」重複区間の魅力参照

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・鯛之川の渡渉地点は滑りやすくもあり、非常に危険。【①】 ・傾斜がきつく距離も長いので、下りでも厳しいルート。膝に負担がかかる。【①】

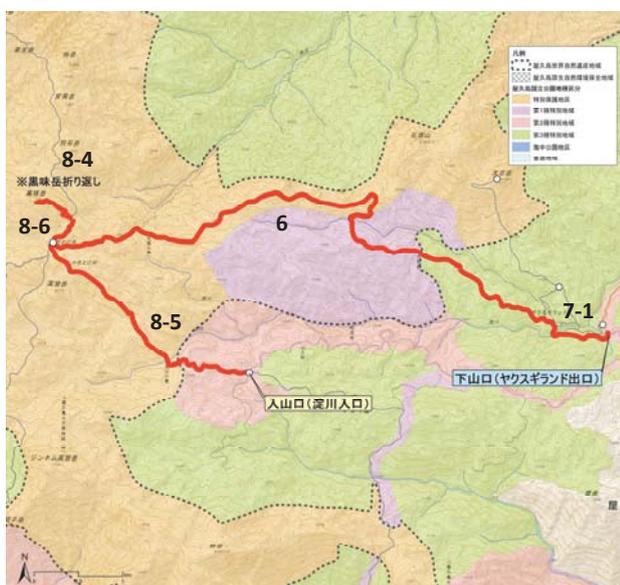
※「No.25尾之間歩道入口～蛇之口滝往復」重複区間の留意点等参照

#### 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I. 利用の頻度・ 利用の容易さ	II. 体力面の 厳しさ	III. 利用に伴う リスク	IV. 自然の 状況	V. 施設・管理
12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	4	4	5	4	4
12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	3	2	4	4	3



No.27	淀川口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 (1泊)	総コース タイム	11:10	行程	淀川口⇒花之江河⇒黒味岳⇒花之江河⇒花之江河登山道⇒ヤクスギランド出口 石塚小屋宿泊
区間	8-5、8-4(花之江河～黒味分かれ区間)、8-6、6、7-1(花之江河登山道出口～ヤクスギランド出口区間)	総距離 標高差	13.1km (811m)		



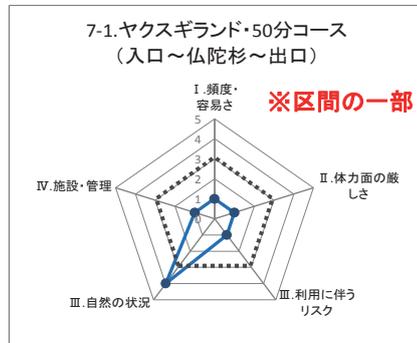
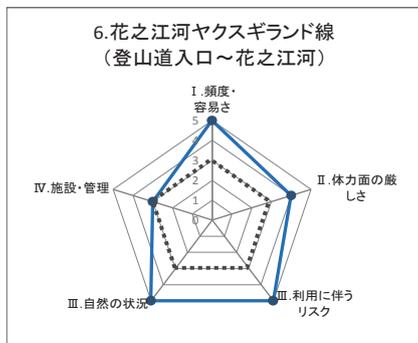
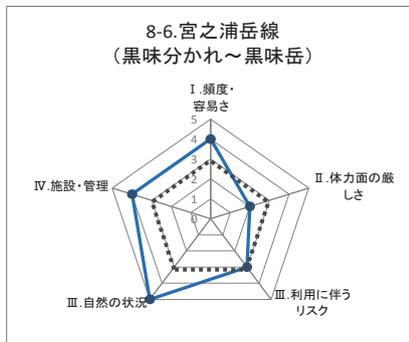
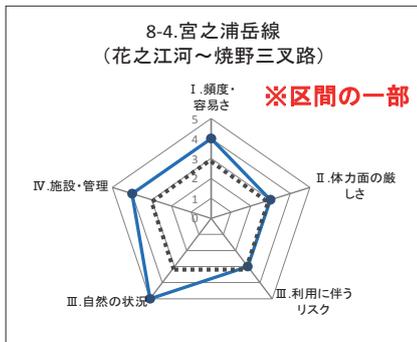
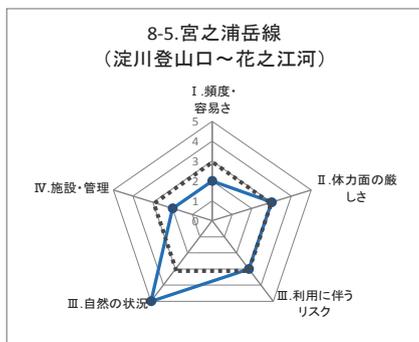
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいソルト。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力	
自然	・原生林の雰囲気を感じることができる。【②】
景色・眺望	・みはらし台の岩場からの安房川を望む景色が素晴らしい。特に新緑と紅葉の時期が良い。【①】【②】 ・ビヤクシン沢の徒渉点の景色。【②】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.20ヤクスギランド～大和杉往復」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の魅力参照。	

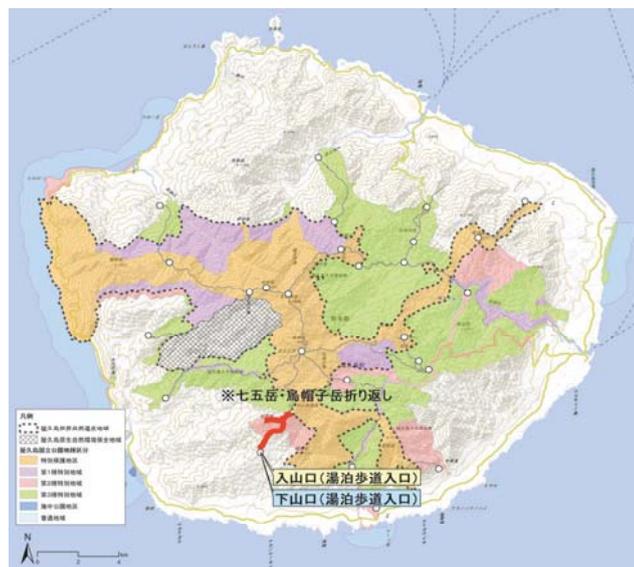
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
トイレ	・トイレが少ない。【②】
安全面	・花之江登山道は利用が少ないため、台風等の後に道が分かりづらくなる。もう少し道標の整備が必要。【①】 ・花之江河登山道の下りルートは道迷いのリスクが高い。屋久島登山が初めての人にはお勧めできない。【①】 ・徒渉点があり、雨天時は注意が必要。【②】 ・湿地帯が多い。【②】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.20ヤクスギランド～大和杉往復」「No.16ヤクスギランド80分コース」重複区間の留意点等参照。	

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2
8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)	4	3	3	5	4
8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	4	2*	3	5	4
6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	5	4	5	5	3
7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1



No.28	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復(日帰り)	総コースタイム	7:40	行程	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳山頂 往復 日帰り
区間	10(湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳区間)往復	総距離 標高差	8.0km (744m)		



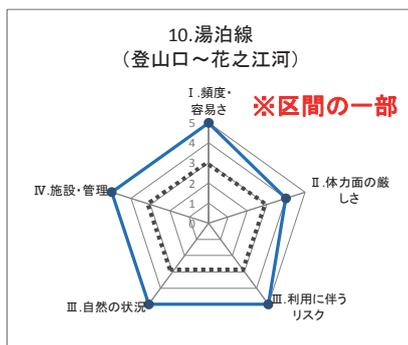
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>4</b>	<p>・コースタイムや距離から日帰り行程が可能であり、原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性を考慮し、ランク4を想定。</p>	<p>・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。</p>

2.ルートの魅力	
景色・眺望	<p>・烏帽子岳からの眺望は素晴らしく、原生林や奥岳を一望できる。七五岳、烏帽子岳の山頂からの眺望は魅力的。特にシャクナゲの時期が良い。【①】【②】【③】【⑪】【⑫】</p>
歴史・文化	<p>・湯泊区では、神社の大祭の際に七五岳の祠、岳参りの際に烏帽子岳の祠にお参りする。【⑪】【⑫】</p>
その他	<p>・七五岳、烏帽子岳までの道は分かりやすいと思う。それほどきつくないので、林道が崩れるまでは子供会の登山でも利用していた。【⑪】</p>

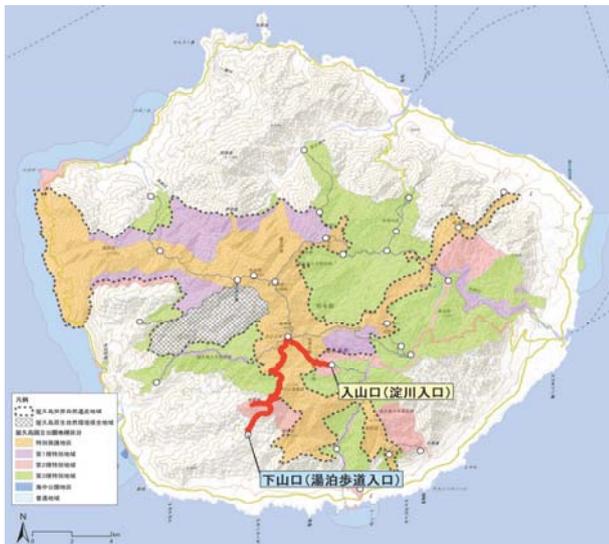
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	<p>・湯泊歩道から七五岳山頂までの道は荒れている。【①】</p>
山の文化への配慮	<p>・七五岳、烏帽子岳ともに、山頂部の祠は分かりやすい。登山者が祠にお参りすること自体に抵抗は無い。むしろ嬉しい。【⑪】</p>
整備全般	<p>・七五岳や烏帽子岳までの道には木道や看板は少ないが、迷いやすい道ではないと思うので、今以上の整備は必要ないと思っている。【⑪】</p> <p>・湯泊線は魅力のある道なので、一般の登山者に楽しんでもらいたい気持ちはある。ただ、利用が増えることで道が荒れても困る。【⑪】</p> <p>・登山道の整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい。【⑫】</p>
その他	<p>・以前は湯泊歩道入口まで車で行くことができたが、大雨で林道が崩れたため、車でのアクセスができなくなった。【⑪】</p> <p>・可能であれば、登山口までの間にある林道のゲートの鍵を湯泊区に預けて欲しい。区の人たちがいつでも登山できたり、道の整備をできるようにしてもらいたい。【⑪】</p>

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
10	湯泊線 (登山口～花之江河)	5	4	5	5	5



No.29	淀川入口～烏帽子岳・七五岳 ～湯泊歩道入口	総コース タイム	11:30	行程	淀川入口⇒花之江河⇒烏帽子 岳・七五岳⇒湯泊歩道入口 1泊
区間	8-5、10	総距離 標高差	13.4km (793m)		



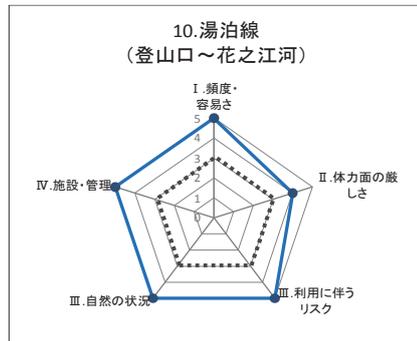
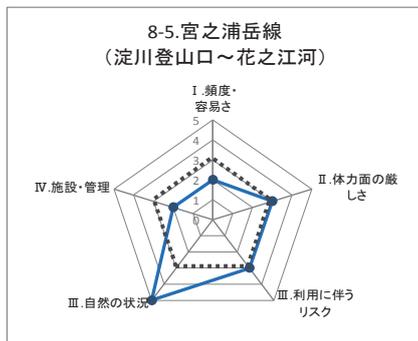
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力	
景色・眺望	・白檀峰周辺からの眺望は良い。【①】 ・高盤岳山頂の特徴的な景観を見ることができる。【⑫】
その他	・湯泊歩道は、最も屋久島らしさを感じられる歩道だと思う。【①】 ・丸木橋を渡る際はスリルがある。【①】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.28湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復」重複区間の魅力参照	

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・白檀峰より下は岩場が多く、滑りやすい丸太橋もあり、技術的な難しさもある。【①】 ・湯泊線は厳しい登山道であると思う。経験と体力のある登山者が対象。湯泊線を通るルートは、ランクで言えば5だと思う。【⑤】
整備全般	・湯泊線は、路線全体として現状以上の整備や利用者が増加する状況にはなって欲しくない。【⑤】
宿泊施設	・湯泊歩道入口から湯泊集落に至る林道が崩れていることもあり、時間がかかる。淀川入口からのルートでは日帰りは困難で、データロー岩屋かワレノの岩屋あたりでのテント泊が必要になるのでは。【①】
※「No.4淀川入口～黒味岳往復」「No.28湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復」重複区間の留意点等参照	

## 4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2
10	湯泊線 (登山口～花之江河)	5	4	5	5	5



No.30	淀川入口～花之江河～栗生歩道～旧栗生歩道入口	総コースタイム	9:35	行程	淀川入口⇒花之江河⇒旧栗生歩道入口 1泊
区間	8-5、9	総距離 標高差	12.4km (1,262m)		



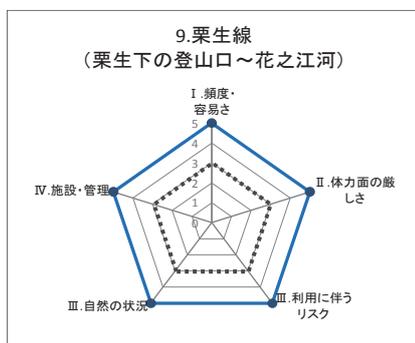
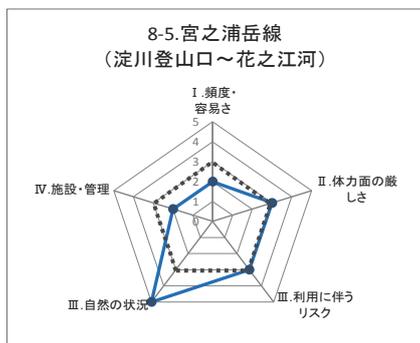
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力	
自然	・栗生歩道の原生林の雰囲気。 ・大洞杉(倒木)は見どころ。
景色・眺望	・栗生歩道の露岩の展望台からの眺望。シャクナゲの花が咲く時期は特に美しい【①】
※「No.4淀川～黒味岳往復」重複区間の魅力参照。	

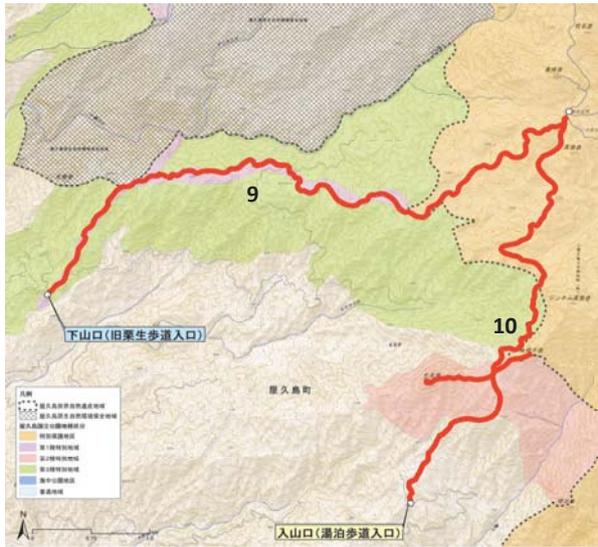
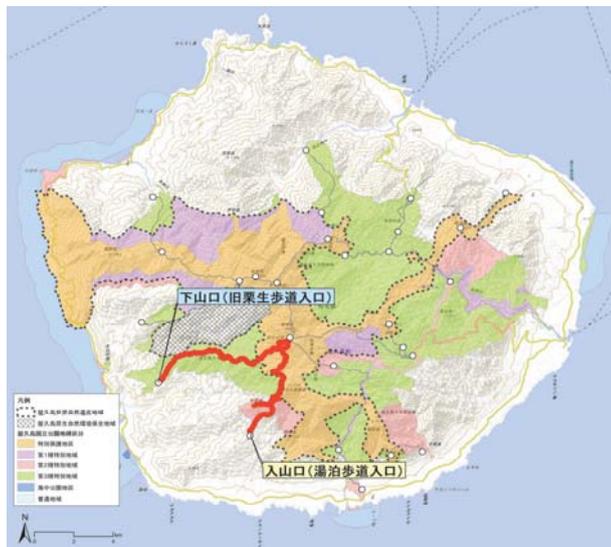
3.利用の際の留意点・その他ご意見	
安全面	・旧栗生歩道はほとんど利用されていないだろう。道も非常に分かりづらく、厳しい。歩道として利用しない方が良いのではないか。【①】 ・栗生歩道は道迷いのリスクが高い。【②】
その他	・小楊子林道は、タクシーによるアクセスはできない。【①】 ・栗生歩道はアクセスが非常に悪い。【②】
※「No.4淀川～黒味岳往復」重複区間の留意点等参照。	

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2
9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	5	5	5	5	5



No.31	湯泊歩道入口～花之江河～栗生歩道～旧栗生歩道入口	総コースタイム	16:25	行程	湯泊歩道入口⇒花之江河⇒栗生歩道⇒旧栗生歩道入口 1泊
区間	10、9	総距離 標高差	19.6km (1,262m)		



1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
<b>5</b>	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	

2.ルートの魅力  
※「No.29淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口」「No.30淀川入口～旧栗生歩道入口」重複区間の魅力参照。

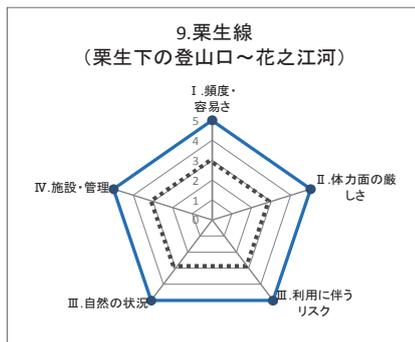
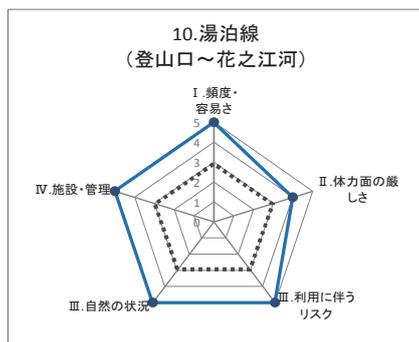
3.利用の際の留意点・その他ご意見

安全面	・登山口、下山口ともに看板が無く分かりづらい。
宿泊施設	・行程が非常に長い。どこかでテント泊をする必要がある。【②】

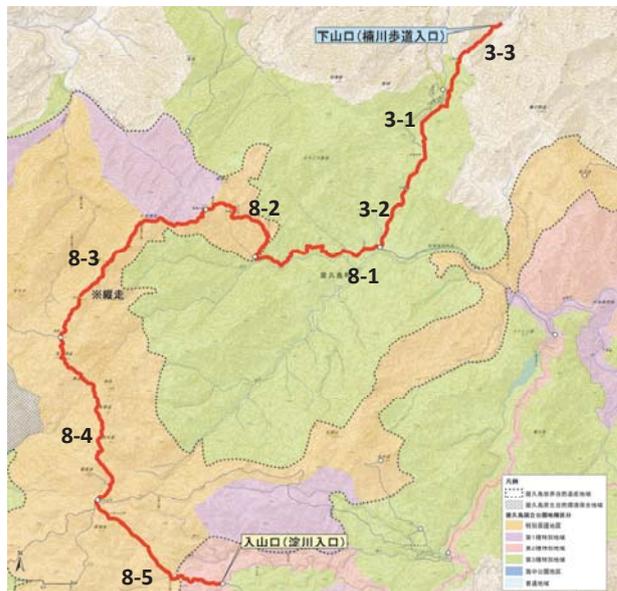
※「No.29淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口」「No.30淀川入口～旧栗生歩道入口」重複区間の留意点参照。

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理
10	湯泊線 (登山口～花之江河)	5	4	5	5	5
9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	5	5	5	5	5



※No.32	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口(1泊)	総コースタイム	16:00	行程 淀川口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒縄文杉⇒楠川分かれ⇒楠川歩道入口 新高塚小屋・高塚小屋宿泊
区間	8-5、8-4、8-3、8-2、8-1(大株歩道入口～楠川分かれ区間)、3-2、3-1(辻峠～さつき吊り橋付近分岐)、3-3	総距離 標高差	21.3km (1,636m)	



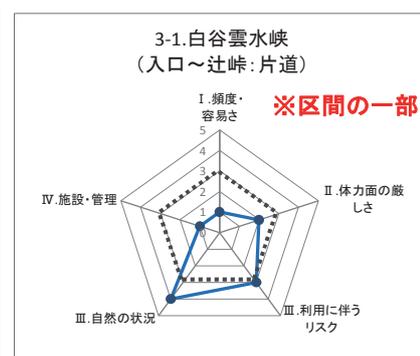
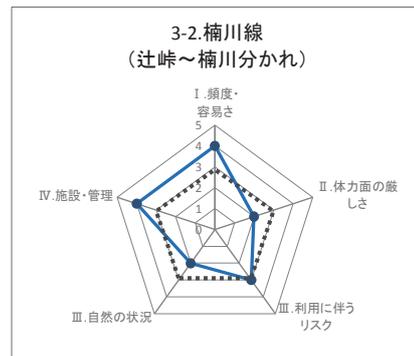
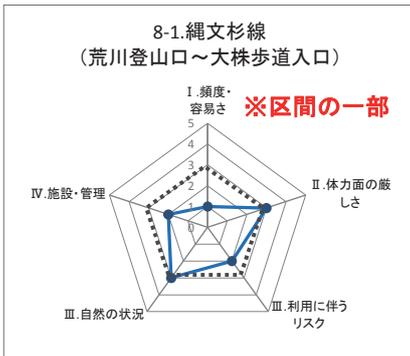
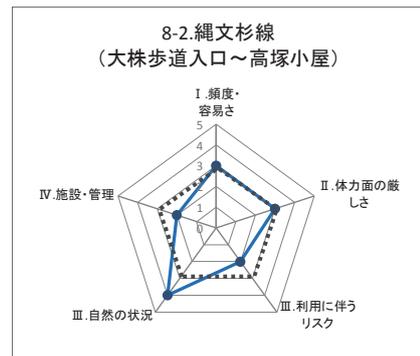
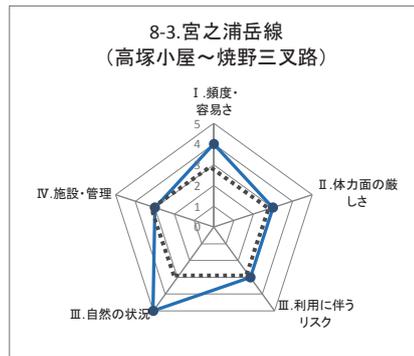
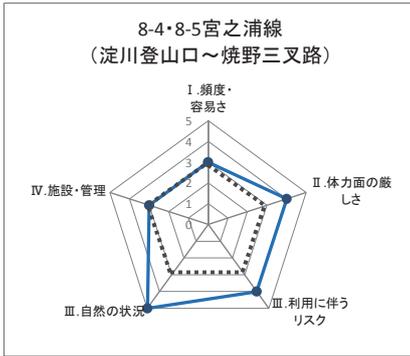
1.利用体験 ランク(案)	選定理由	留意点
4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	

2.ルートの魅力	
歴史・文化	・楠川歩道は、楠川区の岳参りの道。【⑦】【⑨】 ・楠川歩道は過去に材木の搬出で利用されていた歴史のある道で、当時の石積みがそのまま残されている。また、岳参りの際にお参りされる石標が複数ある。歴史的な雰囲気を感じることができる。【⑦】【⑨】
その他	・楠川集落から楠川歩道を利用しての登山は、海拔0mからの登山という魅力もある。【⑨】
※「No.7淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡・縦走(1泊)」重複区間の魅力参照。	

3.利用の際の留意点・その他ご意見	
路面整備	・楠川歩道入口から白谷雲水峡までの区間は、今では利用者が少なく、道の石積みが崩れてくるなど荒廃している部分がある。登山者が利用できるように、修繕してもらいたい。【⑦】
その他	・楠川歩道入口には駐車場が無い。【③】
※「No.7淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡・縦走(1泊)」重複区間の留意点参照。	

4.通過区間の現況(参考)

路線No.	路線名	I.利用の頻度・利用の容易さ	II.体力面の厳しさ	III.利用に伴うリスク	IV.自然の状況	V.施設・管理
8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4	3	3	5	3
8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	4	2	3	2	4
3-1	白谷雲水峽 (入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1



※3-3楠川線(登山口～さつき吊り橋付近分岐)は現況評価のための情報が不足しており、今回は表記していない。

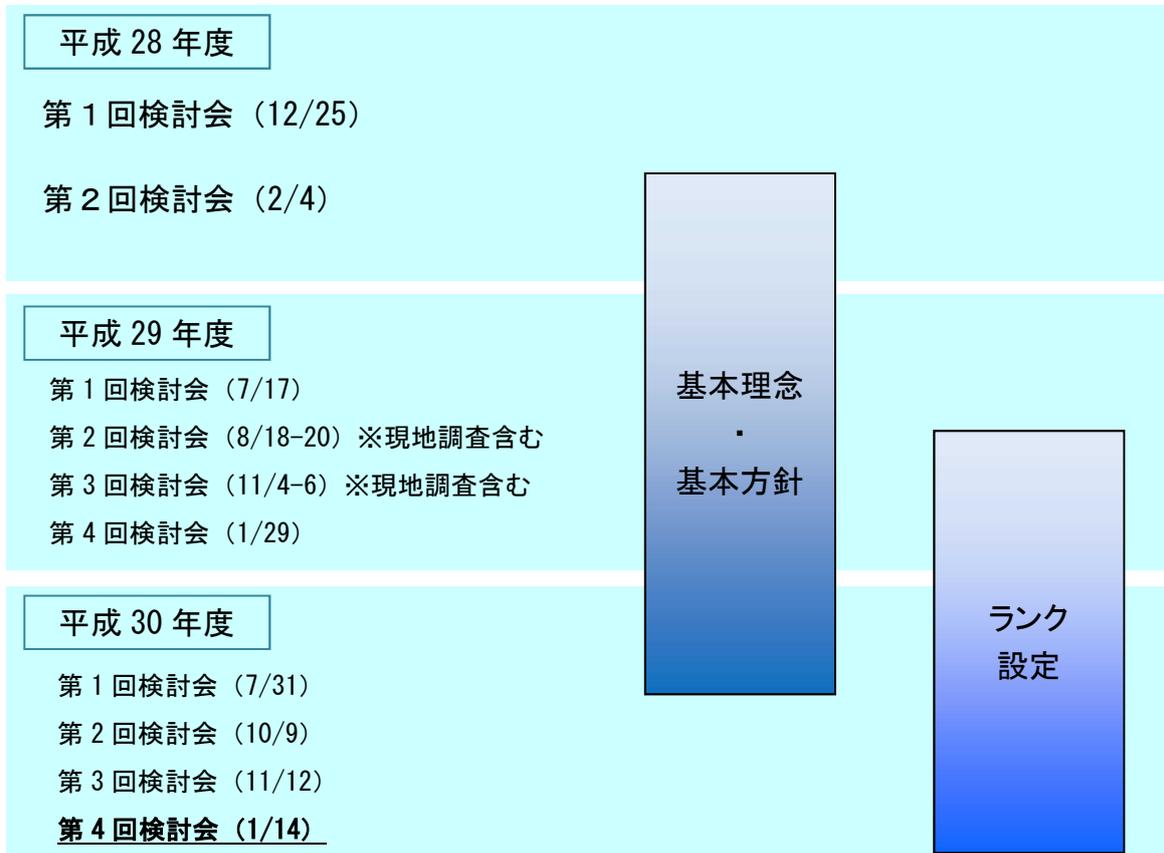
## ※魅力・留意点等の聞き取り対象者

No.	所属・団体名・氏名	聞き取り番号
1	屋久島観光協会 日高順一 事務局長	①
2	屋久島観光協会ガイド部会 中馬慎一郎 会長 伊熊清明 氏	②
3	屋久島山岳ガイド連盟 古賀顕司 代表 渡邊太郎 事務局長 真辺尚子 副代表	
4	屋久島世界遺産地域科学委員 大山勇作 氏	③
5	屋久島世界遺産地域科学委員 日下田紀三 氏	④
6	屋久島国立公園 パークボランティアの会 若松昭男 会長 榎光徳 氏 寺田哲史 氏 寺田廸子 氏 西川高司 氏 渡邊正和 氏	⑤
7	屋久島高等学校山岳部 部員5名 (3年生4名、1年生1名)	⑥
8	奈良大学 鎌田道隆 名誉教授	⑦
9	宮之浦岳参り伝承会 中川正二郎 会長	⑧
10	楠川区関係者 牧実寛 氏	⑨
11	安房区関係者 平野道雄 氏	⑩
12	湯泊区関係者	⑪
13		佐々木義政 氏
14	永田区関係者 田中一巳 氏	⑬
15	栗生区関係者 岩川明 氏	⑭
16	吉田区関係者 田中武浩 氏 田中秀志 氏	⑮

その他、雑誌等で紹介されているルートの魅力や第3回検討会時のご意見を記載。

## 検討全体スケジュールについて

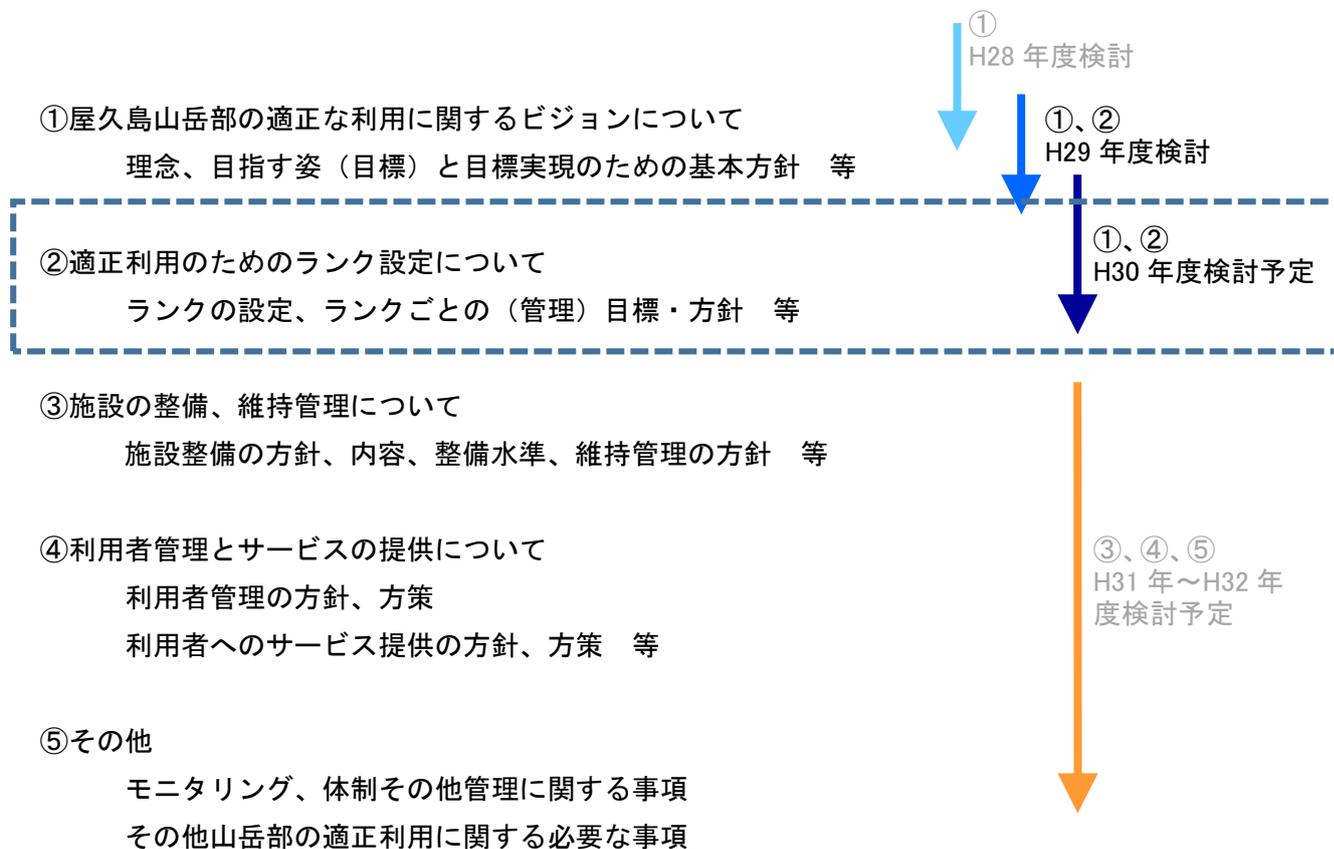
### 1. 全体のスケジュール予定



※「ゾーン」から「ランク」に名称変更



2. 全体の検討状況



## ■管理方針の成果物骨子イメージ（素案）■

1. 作成目的
2. 背景
  - (1) 屋久島（山岳部）の特徴と価値
  - (2) 屋久島の歴史と社会の変遷
  - (3) 屋久島山岳部の保護と利用の状況
  - (4) 屋久島山岳部の保護と適正利用に関する取り組み経緯
  - (5) 屋久島山岳部の保護と適正利用の課題
  - (6) その他

1章、2章  
H28 年度記載  
(随時 精査修正追記)

### 3. 対象区域

### 4. 基本理念と基本方針

※理念、目指す姿（目標）と目標実現のための方針

### 5. 適正利用のためのランク設定

### 6. ランクごとの（管理）目標・方針

平成 30 年度  
検討項目

### 7. 施設の整備と維持管理

#### (1) 施設の整備

※整備の方針や内容、施設整備水準の設定

#### (2) 施設の維持管理

※維持管理の方針・方策

### 8. 利用者管理とサービスの提供

#### (1) 利用者管理

※例：利用コントロール、ルールなど

#### (2) サービスの提供

※例：情報提供方策など

### 9. モニタリング

※モニタリング項目・基準

### 10. その他（管理体制・担い手確保等）